授業科目名	自分を見つめ・拡げ・伝える（歴史領域）						
サブタイトル	映画に描かれた同時代史から社会・教育・いのち・平和を考える						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3
担当教員	岡田了祐					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワー（研究室に掲示）						

到達目標と学習の成果

到達目標

（１）授業の目的　本授業は，映画を資料として，社会・教育・いのち・平和といった観点から，同時代史を描き出すことを目的とする。
（２）授業の構成と到達目標　授業の構成：上記の目的を達成するために，日本の戦時下，及び戦後を描いている映画を取り上げ，その時代像と映画自体に込められているメッセージ性を読み解き，その上で，同じ時代や前後の時代と比較考察する。
到達目標：
①各映画が描いている時代像を読み取ることができる。
②各映画が描いているメッセージ性を読み取ることができる。
③同じ年代の中の差異や時代の連続性を意味づけることができる。
④社会・教育・いのち・平和といった観点から自己を見つめなおすことができる。

学習成果

（１）各映画を資料としながら，それらが描いている時代像を読み取ることができる。
（２）各映画を資料としながら，それらが描いているメッセージ性を読み取ることができる。
（３）映画を比較することによって，同じ年代の中の差異や時代の連続性を意味づけることができる。
（４）上記３点を通して，社会・教育・いのち・平和といった観点から自己を見つめなおすことができる。

ディプロマポリシーとの関連

（１）ディプロマポリシーとの関係：円満な人格と幅広い見識や創造性を備えた「実践力のある女性」として自立していくための知識や感性，それらを活用した思考力の基盤を育成する。
（２）教養教育の目的との関係：現代社会の激しい変化に対応できる総合的な知の基盤を育成するとともに，多様な価値観が相互に入り組んだ問題状況に向き合いながら多元的な価値観の基盤を育成する。

授業の方法

授業は２コマ１セットで１つの内容を扱い，１つのレポートにまとめる。その際，次の4段階で進める。
（１）各回でテーマとした映画を視聴し，内容の事実を整理し，確定する。
（２）（１）を踏まえ，時代像を読み解き，意見交換する。
（３）（２）を踏まえ，製作者のメッセージを読み解き，意見交換する。
（４）他回での映画と比較し，同じ年代の中の差異や時代の連続性を意味づけ，意見交換する。

テキスト教材参考図書

教科書は指定しない。

評価の要点

次の３点を中心に評価する。
（１）意欲を持って取り組むことができているか。
（２）観点をもって分析がなされているか。
（３）論理的な文章が書けているか。

評価方法と採点基準

授業での小課題（40%），授業後の振り返り（20%），期末レポート（40%）の３点で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言など

本やその他の資料を使って，興味があったり，気になった内容については，深めてほしい。

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	オリエンテーション 同時代史とはなにか，それを学ぶ意義はどのようなものか考えてみよう。	同時代史を学ぶ意義に対する理解，論理的思考力，自己表現力	
2回	貧しさと戦争の中を生きた先生と子どもたちー二十四の瞳 映画「二十四の瞳」のストーリーを把握しよう。	映画資料の内容に対する事実的理解	授業で取り扱った内容の復習
3回	貧しさと戦争の中を生きた先生と子どもたちー二十四の瞳② 映画「二十四の瞳」のストーリーから，その時代像を考察してみよう。 映画「二十四の瞳」のストーリーから，そのメッセージ性を考察してみよう。	資料解釈力，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
4回	戦争の記憶ーひめゆりの塔 映画「ひめゆりの塔」のストーリーを把握しよう。	映画資料の内容に対する事実理解	授業で取り扱った内容の復習
5回	戦争の記憶ーひめゆりの塔② 映画「ひめゆりの塔」のストーリーから，その時代像を考察してみよう。 映画「ひめゆりの塔」のストーリーから，そのメッセージ性を考察してみよう。	資料解釈力，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
6回	終わらない戦後ー夕凪の街桜の国 映画「夕凪の街桜の国」のストーリーを把握しよう。	映画資料の内容に対する事実理解	授業で取り扱った内容の復習
7回	終わらない戦後ー夕凪の街桜の国② 映画「夕凪の街桜の国」のストーリーから，その時代像を考察してみよう。 映画「夕凪の街桜の国」のストーリーから，そのメッセージ性を考察してみよう。	資料解釈力，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
8回	敗戦と学校の戦後ーキューポラのある街 映画「キューポラのある街」のストーリーを把握しよう。	映画資料の内容に対する事実理解	授業で取り扱った内容の復習
9回	敗戦と学校の戦後ーキューポラのある街② 映画「キューポラのある街」のストーリーから，その時代像を考察してみよう。 映画「キューポラのある街」のストーリーから，そのメッセージ性を考察してみよう。	資料解釈力，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
10回	高度経済成長期の大学生：「キューポラのある街」との比較ー日本一の若大将 映画「日本一の若大将」のストーリーを把握しよう。 映画「日本一の若大将」と映画「キューポラのある街」の時代像を比較考察してみよう。	映画資料の内容に対する事実理解，資料解釈力，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
11回	多摩ニュータウンの建設ー平成狸合戦ぽんぽこ 映画「平成狸合戦ぽんぽこ」のストーリーを把握しよう。	映画資料の内容に対する事実理解	授業で取り扱った内容の復習
12回	多摩ニュータウンの建設ー平成狸合戦ぽんぽこ② 映画「平成狸合戦ぽんぽこ」のストーリーを把握しよう。 映画「平成狸合戦ぽんぽこ」のストーリーから，そのメッセージ性を考察してみよう。	資料解釈力，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
13回	狸を追い出した後のニュータウンー耳をすませば 映画「耳をすませば」のストーリーから，その時代像を考察してみよう。 映画「耳をすませば」のストーリーから，そのメッセージ性を考察してみよう。	映画資料の内容に対する事実理解	授業で取り扱った内容の復習
14回	狸を追い出した後のニュータウンー耳をすませば② 映画「耳をすませば」のストーリーから，その時代像を考察してみよう。 映画「耳をすませば」のストーリーから，そのメッセージ性を考察してみよう。	資料解釈力，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
15回	まとめ 同時代史とはなにか，それを学ぶ意義は どのようなものか，もう一度考えてみよう。	同時代史を学ぶ意義に対する理解，論理的思考力，自己表現力	授業で取り扱った内容の復習
試験			

授業科目名	自分を見つめ・拡げ・伝える（文化領域Ⅰ）						
サブタイトル	伝えよう年中行事						
授業区分	教養科目	単位数	2 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3以上
担当教員	古川由紀子					授業形態	講義
質問受付の方法	研究室（7411）に掲示						

到達目標と学習の成果

到達目標

（1）授業の目的
昔から脈々と伝えられてきた年中行事には、子どもの成長を祈ったり、日本ならではの季節の節目を感じるものなど、祖先が大切にしてきた命への思い、自然への尊厳が込められています。
年中行事の意味を子どもたちに語れるようにし、命の尊さについて実感することを目的とします。
（2）到達目標
1、年中行事の意味を知り日本の文化の素晴らしさを表現することができる。。
2、年中行事の意味を子どもに伝えることができる。
3、年中行事に込められた思いを理解することができる。

学習成果

1、年中行事の意味を知り、自分たちの生活との関係を理解することができる。
2、様々な方法を使って年中行事の意味を子どもに伝えることができる。
3、年中行事に込められた思いを理解し、自分の成長に感謝することができる。

ディプロマポリシーとの関連

①ディプロマポリシーとの関係
日本古来の伝統である年中行事の理解を深めることにより、幅広い見識と専門性、創造性を有する「実践力のある女性」を育成する。
②教養教育との目的との関係

授業の方法

1、授業内容のテーマごとの理解を深めるために自分でノートを作成し記録する。
2、年中行事の制作物や絵本など実践的に取り組む。
3、グループ討議の中で自分の感想・意見を出し合う。

テキスト教材 参考図書

教科書は指定しない。

評価の要点

（1）主体的に授業に参加できた。
（2）感想・意見を積極的に表現できた。
（3）グループで協力できた。
（4）子どもに伝えるという観点で考えることができた。

評価方法と採点基準

定期試験期間内レポート（70パーセント）感想・意見の発表（20パーセント）
他者の意見を聞く態度（10パーセント）

履修上の注意事項や学習上の助言など

授業に主体的に参加してください。
感想や意見は積極的に出しましょう。他者の意見はきちんと聞くようにしましょう。
自分でノートを作成しましょう。

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 学修の見通しをもち、授業のねらいや心構えを理解する グループづくり	授業内容の理解 コミュニケーション能力	次回の準備
2回	年中行事を調べよう グループで日本の年中行事について調べる 発表する	検索力 コミュニケーション能力 協働 発表力	次回の準備
3回	成長に伴う行事（1） 誕生から成長に伴う行事について意味を理解する	自分の成長を振り返る	次回の準備
4回	成長に伴う行事（2） 誕生から成長に伴う行事について意味を理解する	自分の成長を振り返る	次回の準備
5回	自分の成長を感じよう 誕生からの行事を通して自分の成長を感じ、親の思いを知る レポートにまとめる	感性 自己表現力 文章構成力	次回の準備
6回	春の行事 春の行事を知る 自然と人間の共生について 先人の知恵を知る	行事の意味の理解 分析力	次回の準備
7回	ひな人形を作ってみよう～子どもにどのように伝えますか～ ひな人形を作成する 子どもへの伝え方を考える	伝達力 見通しをもった考察力	次回の準備
8回	夏の行事 夏の行事を知る 自然と人間の共生について 先人の知恵を知る	行事の意味の理解 分析力	次回の準備
9回	七夕飾りを作ってみよう～子どもにどのように伝えますか～ 七夕飾りを作成する 子どもへの伝え方を考える	伝達力 見通しをもった考察力	次回の準備
10回	秋の行事 秋の行事を知る 自然と人間の共生について 先人の知恵を知る	行事の意味の理解 分析力	次回の準備
11回	十五夜団子を作ってみよう～子どもにどのように伝えますか～ 十五夜団子を作成する 子どもへの伝え方を考える	伝達力 見通しをもった考察力	次回の準備
12回	冬の行事 冬の行事を知る 自然と人間の共生について 先人の知恵を知る	行事の意味の理解 分析力	次回の準備
13回	節分の鬼を作ってみよう～子どもにどのように伝えますか～ 節分の鬼を作成する 子どもへの伝え方を考える	伝達力 見通しをもった考察力	次回の準備
14回	年中行事の持つ意味・役割とは（1） 生活の中で年中行事がどのような役割をもっているか グループで討議する	考察力 コミュニケーション能力 協働	次回の準備
15回	年中行事の持つ意味・役割とは（2） 年中行事の役割についてグループでまとめたことを発表する	協働 発表力 聞く力	レポート作成に向けて準備
試験	1年間の授業を振り返ってレポートにまとめる レポート提出		

授業科目名	自然・社会・科学技術を考える（科学技術領域）						
サブタイトル	情報技術の発展と歴史　～技術発展の裏には歴史がある～						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3
担当教員	岡本尚志					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示する						
到達目標と学習の成果	**到達目標** （1）目的 情報社会の成り立ちや技術を歴史的背景と共に正しく理解し、正しい利用方法とは何かを考えるきっかけとし、自らのＩＣＴ（Information and Communication Technology：情報通信技術）における効果的な活用を行うことができる人材を育成することを目的とする。 （2）授業構成と到達目標 ①現在の情報社会の成り立ちと歴史的背景を正しく理解できる。 ②情報社会の利便性の裏の危険性を理解し、必要モラルを認識し、正しい情報リテラシーを身につける。 ③問題解決的な学習について理解できる。 **学習成果** （1）現在に至る情報社会の成り立ちを説明することができる。 （2）情報機器について基本的な原理や仕組みを説明することができる。 （3）ＩＣＴを適切に活用することができる。 （4）情報社会ならでは正しいルールを認識し、大学生としてふさわしい情報リテラシーを身につけることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	情報社会の成り立ちを理解し、社会人に必要な情報モラルを育成できる資質や能力を修得している。 ①ディプロマポリシーとの関係 CS（Computer science）全般に渡る専門領域に関わる理論と知識と技能を結びつけて、グローバルかつローカルな視点をもって、多様な実際的かつ実践的な問題や課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる力を育みます。 ②教養教育の目的との関係 情報全般の知識を学ぶことで個別の学問領域を超えたアイディアや学際的かつ多面的な洞察力と学術を総合した問題解決力を育成する力を培います。						
授業の方法	（1）スライドや動画を用いて、情報技術に関する基礎的な内容を解説する。 （2）発表やレポート提出など意見する場を提供する。また、Moodleによるアクティブラーニングを用いてグループディスカッションや討論の場を設ける。						
テキスト教材 参考図書	教科書は指定しない。						
評価の要点	（1）講義の内容を理解しているかどうかの記述式試験を行う。 （2）授業時間内において数回小テストを実施する。 （3）情報機器や利用方法など、あるテーマについてレポートの提出を求める。						
評価方法と採点基準	定期試験50%　小テスト・レポート40%　授業態度10%						
履修上の注意事項や学習上の助言など	（1）扱う内容が幅広いので、必ず復習をすること。 （2）ノートを見ただけで講義内容を思い出せるように、ノートの取り方を工夫して欲しい。 （3）得られた知識を応用できるように、「覚える」だけでなく「理解」して欲しい。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	【ガイダンス】 授業の目的、内容、進め方を理解する。	情報技術全般の理解することができる	情報技術全般の整理、復習90分
2回	【電気の働き】 情報機器に必要な電気一般について働きや特徴を理解する。	電気一般の基礎的知識を理解することができる	電気一般について予習、予習90分
3回	【電磁波の働き】 無線通信で利用されている電波や電磁波全般について学習する。	電磁波の基礎的知識を理解することができる	電波について予習、予習90分
4回	【制御とは】 コンピュータに必要な制御の基礎について理解する。	制御についての基礎知識を理解することができる	制御全般について予習、予習90分
5回	【情報技術の開発と歴史】 コンピュータの歴史を年代順に学習する。	情報技術の歴史についての理解を理解することができる	現在の情報社会に至るまでの成り立ちを予習、予習90分
6回	【ハードウェアの原理】 コンピュータに必要なハードウェアの基礎について理解する。	コンピュータについての基礎知識を理解することができる	コンピュータ全般について予習、予習90分
7回	【ソフトウェアの原理】 コンピュータに必要なプログラムの基礎について理解する。	コンピュータについての基礎知識を理解することができる	コンピュータ全般について予習、予習90分
8回	【コンピュータの動作原理】 コンピュータの動作原理を理解する。	コンピュータについての基礎知識を理解することができる	コンピュータ全般について予習、予習90分
9回	【ネットワークの基礎】 無線・有線ネットワークについて理解する。	ネットワークについての基礎知識を理解することができる	ネットワーク全般についての予習、予習90分
10回	【複合システムの働き】 組み込み技術であるエンベデッドシステムなど、複合システムについて学習する。	複合システムの理解を理解することができる	エンベデッドシステムについての予習、予習90分
11回	【プログラミング基礎】 プログラミングについて理解することができる	プログラミングの予習、予習90分	プログラミングの予習、予習90分
12回	【プログラミング演習】 システムの要であるプログラミングについて理解する。	プログラミングについての理解を理解することができる	プログラミングの予習、予習90分
13回	【システムの作り方・考え方】 システムの作り方や考え方を学習する。	システムの構築について理解することができる	システムの構築についての予習、予習90分
14回	【現在のＩＣＴについて】 現状のＩＣＴの種類や利用方法を理解する。	ICTの種類についての理解を理解することができる	ICTの利用方法についての予習、予習90分
15回	【まとめ】 授業内容を振り返る	情報技術の基礎的理解と応用する力を身につけることができる	情報技術全般の予習、予習90分
試験	第１～１５回に行った授業の範囲内で試験を行う 授業内容に関する記述式試験を行う。		

授業科目名	自然・社会・科学技術を考える（科学技術領域）						
サブタイトル	知っておきたい食の知識						
授業区分	教養科目	単位数	2 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3以上
担当教員	吉田真美					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーを設ける。授業の前後でも良い。						
到達目標と学習の成果	**到達目標** (1)授業の目的 健康な食生活を送るために、日常の食べ物についてより深い知識を得る。 (2)授業の構成 毎回特定の項目を取り上げて学ぶ。各回ごとの完結方式とする。 (3)到達目標 食べ物に関する知識を得て、今後の食生活に生かして、より健康で長寿の人生を送ることを目指す。 **学習成果** ① 日常の食生活で摂取する食べ物を科学的に理解することができる。 ② 各学生が自分の現在の食生活を組み立てることができる。 ③ 食に関する基礎知識を得ることにより、現在および将来の自分・家族および周囲の人たちの健康な食生活に生かすことができる。						
ディプロマポリシーとの関連	① ディプロマポリシーとの関連 様々な食に関する風評に惑わされず、また多忙な時でも、毎日の規則正しい健康的な食生活を維持できる「実践力のある女性」を育む。 ② 教養教育の目的との関係 食を科学的に理解し、また食生活における喜びや楽しみを周囲の人間と共有して豊かな人生を送ることができる「自立した女性」を育む。						
授業の方法	① 講義終盤に、時間を設けて講義のポイントをまとめる。 ② 講義内容によっては、それまでの知識をもとに学生が献立をたてる機会を設ける。 それを教員が評価する。						
テキスト教材 参考図書	教科書は指定しない。						
評価の要点	①各提出物によりその理解内容や努力を評価する。 ②提出されたレポート内容により、授業内容の理解、および応用力や実践力があるかを評価する。						
評価方法と採点基準	講義した複数種類の食材からいくつか選択して、学生がさらに調べてレポートにしたものを評価する（100%）。						
履修上の注意事項や学習上の助言など	食に興味があり、向上心のある学生の履修を期待する。						

授業回数	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス・授業の目的 1. 人間の体は、摂取した食べ物からできている。2. 五大栄養素とは何か。	食品中の栄養素の体内での役割を理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
2回	献立作成 和食の献立（主食、主菜、副菜、汁もの）と栄養素との関係を学ぶ。	献立作成における栄養的な意味と味覚との関係を理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
3回	主食を学ぶ 米、小麦、イモ類はなぜ主食として役立つのか。	米、小麦、イモの化学的成分の共通点と体内での役割を理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
4回	主菜を学ぶ　(1) 食肉・魚類をなぜ摂取する必要があるのか。	食肉・魚類の化学的成分の共通点と体内での役割を理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
5回	主菜を学ぶ　(2) チーズについてもっと知識を深めよう。	チーズの化学的成分と体内での役割を理解する。世界に存在するチーズの種類を学ぶ。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
6回	主菜を学ぶ　(3) 豆類についてもっと知識を深めよう。	豆類の化学的成分と体内での役割を理解する。世界に存在する豆類の種類を学ぶ。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
7回	副菜を学ぶ 野菜や果物を摂取する必要性とは何か。	野菜・果物に含まれる栄養素と体内での役割を知る。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
8回	デザートを学ぶ（1） 洋菓子の種類にはどんなものがあるのか。共通する材料は？	洋菓子を構成する材料と栄養について理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
9回	デザートを学ぶ　(2) 和菓子の種類にはどんなものがあるのか。共通する材料は？	和菓子を構成する材料と種類と栄養について理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
10回	酒について学ぶ　(1) 酒の科学について学ぶ。人間はなぜ酔うのか。酒に強い人と弱い人がいるのはなぜか。	酒に関する知識を得て、自分と酒とのつきあい方を理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
11回	酒について学ぶ　(2) ワインについて学ぶ。産地、製法、ラベルの読み方、保存について学ぶ。	ワインを理解してより楽しく飲むことが可能になる。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
12回	飲物について学ぶ　(1) 緑茶と紅茶について、嗜好品としての役割と体内での役割について学ぶ。	緑茶と紅茶に関する知識を深めて、茶の素晴らしさを理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
13回	飲物について学ぶ　(2) コーヒーについて勉強し、その作用と成分について学ぶ。	コーヒーに関する知識を深めて、世界で愛される理由を理解する。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
14回	香辛料について学ぶ 香辛料の種類とその機能を理解する。世界の料理への利用例を知る。	香辛料を知り、実際に利用できるように基礎知識が得られる。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
15回	太ることやせること 太り過ぎ、やせ過ぎはいずれも健康をそこねる。BMIの計算、正しい摂取エネルギーについて学ぶ。	自分の肥満度を計算して、健康な状態を知り、それを目指すことができる。	授業内に、その日の講義内容をまとめる。復習30分。
試験	レポート 期限までに提出がない場合はD評価とする。		

授業科目名	相談援助						
サブタイトル	保育士として相談援助の必要性と意義を理解する						
授業区分	専門教育科目	単位数	1 単位	開講時期	春秋期	出席要件	2/3以上
担当教員	檜垣昌也					授業形態	演習
質問受付の方法	授業後およびオフィスアワーとして研究室にて対応（研究室の掲示参照）						

到達目標と学習の成果

到達目標

（1）目的
相談援助の基本的知識を元に、事例検討など保育士が実際にかかわる場面の実践方法を擬似的に習得する。
（2）授業構成と到達目標
①相談援助の意味と支援の実際について自身の言葉で説明できる
②相談援助職の役割と意義を説明できる。
③保育実践上必要な相談援助の方法を体系的に整理でき、擬似的に実践できる。

学習成果

①相談援助職（専門職）としての価値観、倫理観を説明できる。
②相談援助の実際を理解し、保育士への心構えを述べることができる。
③援助の実際を説明できる。
④実習時における適切な行動とコミュニケーションがとることができる。

ディプロマポリシーとの関連

①ディプロマポリシーとの関連
1）児童学に興味・関心を持ち、子どもたちに関する専門的知識と理論および技能を修得している。
2）児童学を論理的、実践的に考究し、子どもの問題を多面的に捉えて問題解決ができる。
上記の知識・能力・態度の獲得に寄与する。
②カリキュラムマップ「幼児教育を探求する」に配当

授業の方法

1．主として教科書を使用し、グループワークも取り入れた演習形式。
2．教科書の内容を補足し、説明する。
3．授業の到達目標、学習成果のために、毎時間小レポートを課す（授業内で提出）。
4．必要に応じて、演習内容に応じた視聴覚教材を使用する。
5．折に触れ、実習での心構えと関連付けて、実習に向けての意欲の向上にも努める。
6．小レポートに対するフィードバックをおこなう。

テキスト教材 参考図書

教科書 保育士のための相談援助ー子どもと保護者への支援ー【第3版】 井元真澄編 大学図書出版 2014 二回目以降必携です。

評価の要点

・毎回の小レポート・期末試験・授業態度を総合的に評価する。
・毎回、小レポート用紙（出席カードを兼ねる）を配布する
（記入漏れなど不備がある場合は欠席扱い）。
・期末試験は持ち込み不可の内容とする。

評価方法と採点基準

・「評価の要点」に基づいて実施する試験を70％とする。
・授業内に提出する小レポートを20％とする。
・グループワークへの取り組みを10％とする。

履修上の注意事項や学習上の助言など

諸事情（交通機関・忌引）により遅刻・欠席・早退の場合、早急な報告を求める。
集中力維持のため毎時間読書時間を設ける。教科書・読書用図書は毎回持参してもらう（2回目より）。
これらを持参しない場合は欠席扱いとする。特別な事情の場合を除き、指定した席での受講を求める。

授業回数	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 半期１５回の流れの説明。 この授業で目指す目標と身に付けるべき力について説明。	この授業の位置づけが実習との関連で説明できる。	予習30分:シラバスを読む。 復習60分:本科目の目的をまとめる。
2回	保育士とソーシャルワーク ソーシャルワークの内容やソーシャルワークを活用した支援の実際を概略的に説明する。	保育士がソーシャルワークを学ぶ必要性を理解し説明できる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
3回	ソーシャルワークの意味と種類①個別援助・集団援助 個別援助と集団援助の考え方・系譜について外観していく。	保育士がかかわる身近な支援がソーシャルワークの一部であることをイメージできる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
4回	ソーシャルワークの意味と種類②地域援助・その他の援助技術 保育所が地域に根ざした子育て支援の拠点であることを説明しその上で地域にかかわることの意味を考えさせる。 その他の援助技術を概観する。	「地域」・「生活」等をキーワードに各自が地域援助技術、その他の援助技術について説明できる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
5回	ケースワークの基礎知識①原則・過程 ケースワークの原則、過程について事例を交えて説明する。	ケースワークの基礎として、ケースワークの原則、過程について理解し、各自で整理することができる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
6回	ケースワークの基礎知識②専門的態度・技法 ケースワークを行う上で必要な専門的態度および技法について事例を交えて解説する。	ケースワークの基礎知識として、ケースワークの専門的態度、技法について理解し、各自で整理することができる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
7回	グループワークの基礎知識 グループワークの基礎知識として、原則、過程、技法について解説する。	グループワークの基礎知識が各自がこれまで行ってきたワークにあることを、事例を交え説明できる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
8回	コミュニティワークの基礎知識 コミュニティワークの原則、過程、技法、課題について解説していく。	コミュニティワークの原則、過程、技法を交え、地域社会と保育の関係を説明できる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
9回	ケースワーク演習：保育所での事例、施設での事例 教科書の事例を参考に グループ内で事例の理解、事例登場人物の役割と心情把握に努め ロールプレイの準備をする。	グループ学習により、各自が主体的に事例の理解に努められる。 同時に他者の意見を聞くことにより、多様性理解の一助となる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
10回	グループワーク演習：児童館、児童養護施設等 教科書の事例を参考に グループ内で事例の理解、事例登場人物の役割と心情把握に努め ロールプレイの準備をする。	グループ学習により、各自が主体的に事例の理解に努められる。 同時に他者の意見を聞くことにより、多様性理解の一助となる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
11回	コミュニティワーク演習：地域子育て支援センター、子育てサロン等 教科書の事例を参考に グループ内で事例の理解、事例登場人物の役割と心情把握に努め ロールプレイの準備をする。	グループ学習により、各自が主体的に事例の理解に努められる。 同時に他者の意見を聞くことにより、多様性理解の一助となる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
12回	グループワークのまとめ①ケースワーク事例 グループワークのまとめとして、発表会を開催。 各自が事例の内容を把握深められるようにする。	自分が担当した事例だけでなく、他グループの発表から事例の実際と課題展望について理解を深める。	予習60分事例発表の準備 （発表担当回の場合） 復習30分（ 当該授業の内容理解）
13回	グループワークのまとめ②グループワーク事例、コミュニティワーク事例 グループワークのまとめとして、発表会を開催。 各自が事例の内容を把握深められるようにする。	自分が担当した事例だけでなく、他グループの発表から事例の実際と課題展望について理解を深める。	予習60分 （発表担当回の場合） 復習30分 （当該授業の内容理解）
14回	ソーシャルワークの動向と課題 ソーシャルワークが発展してきたこととこれからの動き。 新たな展開について解説する。	ソーシャルワークにおける自立支援やアドボカシー、エンパワメントなどを自身の言葉で説明できる。	予習30分:教科書該当範囲を読む。 復習60分:授業内容をまとめる。
15回	本科目の総まとめ これまでの授業内容のまとめをする。 実習を含めた今後の学習に向けて何をすべきか、 また心構えなどを再確認させる。	この科目が今後の学習のどの部分に活用できるのかを説明できる。今後の学習への心構えがより強まる。	予習30分:理解不足箇所の確認。 復習90分:試験の準備と学習。
試験	授業内試験 筆記試験 持ち込み不可		

授業科目名	自然・社会・科学技術を考える（社会領域）						
サブタイトル	イギリス人の子ども部屋						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	3分の２以上
担当教員	椨　瑞希子					授業形態	講義
質問受付の方法	毎時間、講義の最後に５～１０分程度の質疑応答の時間を設ける						

到達目標と学習の成果

到達目標

１．19世紀後半以降の子ども部屋を舞台とした文学作品等を通して、イギリスの社会や家族の変貌を知り、日本における変貌と比較して考えることができる。
２．それぞれの時代における子ども観と子育ての在り方、子育ての担い手等について理解することができる。
３．子ども部屋という空間や、子どもをターゲットにした産業について探究的な視点をもつことができる。

学習成果

１．子ども部屋を舞台とした文学作品等を通して、イギリスの社会や家族の変貌について知り、自らの生育歴や日本における変貌と比較して考えることができる。
２．イギリスにおける子ども観と子育ての変貌について、その要点を整理して述べることができる。
３．子ども部屋という空間や子どもをターゲットとした産業が、人間形成の過程に及ぼした影響等について、自分史を通して理解し、自分の考えを述べることができる。

ディプロマポリシーとの関連

①ディプロマポリシーとの関係
グローバルな視野を備え地域で活躍できる専門性の高い実践力を発揮して、自分なりの価値を見いだし、自らの意思で一歩を踏み出すことのできる女性を育成する。
②教養教育の目的との関係
子ども部屋を舞台としたイギリスの文学作品等の学習を通して、文化、社会、自然、身体・精神などに関わるグローバルかつ複合的な諸現象や多様な問題状況に向き合い、個別学問領域を超えたアイディアや学際的かつ多面的な洞察力と学術を総合した問題解決力を育成する。

授業の方法

・授業は、講義および映像・図版・図書の紹介からなる。
・講義では、19世紀から現代にいたるまでのイギリスの社会・家族・子ども・児童文化・保育に関する研究の概要を伝える。
・映像や図版を通して、子ども部屋の文化やそれを育んだ社会についての理解を促すとともに、イギリスの児童文学作品を愉しむことを目指す。
・授業内容の理解に必要な資料の配布、参考文献の紹介は、毎回の授業で行う。

テキスト教材 参考図書

教科書は指定しない。

評価の要点

読書記録・情報収集記録とレポートの提出を求め、以下の観点から評価を行う。
○ 提出物の内容が、必要な作業に基づいており、指定された事項について述べたものであること。
○ 提出物が所定の形式で書かれ、よく整理され、十分な内容を備えていること。

評価方法と採点基準

以下の３点について、表記の割合で評価する。
１．イギリスの児童文学５作品（絵本を含む）の読書記録（50%）
２．イギリスの家族・子育て・教育等に関する新聞・雑誌記事５件について、それぞれ400～600字でまとめた論考。（30%）
３．「子ども部屋の空間・モノと私」の題目でまとめたエッセイ。（20%）

履修上の注意事項や学習上の助言など

・多量の作業があるので、日頃から自習を積み上げることが必要である。
・評価項目については、授業のオリエンテーションで説明する。

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	科目オリエンテーション ・授業内容と作業課題、評価についての説明 ・イギリスの児童文学入門書の紹介	イギリス児童文学に関する知識	イギリスの児童文学書を読む（３０分）
2回	『風にのってきたメアリー・ポピンズ』と『秘密の花園』 ・よく知られた２作品を映画化した「メリー・ポピンズ」「秘密の花園」を通じてビクトリア・エドワード期の子ども部屋世界を概観する。	映像を批評的に観る姿勢	イギリスの児童文学書を読む（３０分）
3回	二匹のくま：「プー」と「パディントン」 ・世界的に有名なぬいぐるみのクマ「プー」と「パディントン」の物語成立の経緯と物語世界の主題を、時代背景に照らして読む。	イギリス児童文学に関する知識	イギリスの児童文学書を読む（３０分）
4回	ピーター・パンと著者ジェームス・バリー ・ピータンパンの作品成立の経緯を探り、作品に描かれた子ども部屋のありようと親子関係について考察する。	映像を批評的に観る姿勢	イギリスの児童文学書を読む（３０分）
5回	「二つの国民」の子どもたち：ビクトリア・エドワード期の働く子ども ・映画「オリバー」や「わが谷は緑なりき」に描かれた子どもの生活と「メリー・ポピンズ」「秘密の花園」のそれとの違いについて考える。	映像を批評的に観る姿勢	イギリスの児童文学書を読む（３０分）
6回	戦後世界の「二つの国民」 ・1960年代に開始され、今日なお継続中のイギリスの「７年ごとの映像記録」プロジェクトを通じて、人間形成過程と階級文化との関連を考える。	日本の社会を相対化する視点	日本社会における学校教育について調べる（３０分）
7回	メアリー・ポピンズ再び ・改めて映画「メリー・ポピンズ」を視聴し、ナニー（養育係）の存在とナニーによる子育てについて知り、イギリスにおける保育職の成立過程を学ぶ。	映像を批評的に観る姿勢	日本の子育てについて調べる（３０分）
8回	もうひとつの「二つの国民」：男性と女性 ・ビクトリア・エドワード期の女性の置かれた立場と女子教育問題について知り、女学校と幼児教育施設の成立の関係についても学ぶ。	日本の社会を相対化する視点	日本の女子教育の歴史について調べる（３０分）
9回	イギリスの女子教育史と幼児教育史 ・年表を使用しながら、イギリスにおける幼児教育の歴史を学び、これまでに取り上げた文学作品に描かれた子ども部屋を位置付ける。	文献読解力	日本の女子教育の歴史について調べる（３０分）
10回	階級と言語：母語の揺り籠としての子ども部屋 ・映画「マイ・フェア・レディー」が描き出した言語と社会階級の問題を、バーンスタインの言語社会化論を手掛かりにしながら考える。	創造的思考力	自らの英語学習歴を振り返り、言葉の役割について考える（３０分）
11回	子ども部屋と子ども産業 ・子ども部屋は、子どものために作り出された数多くの商品が消費される場でもあった。モノと人間形成との関連について自分史を通して考える。	子育てを市場との関連でとらえる視点	関連する新聞記事を探して読む（３０分）
12回	保育室の教材：ナーサリー・ライム、絵本、おもちゃ ・今日の保育室におかれるモノに直接触れながら、子ども部屋に置かれたそれとの差異を考える。	子育てを市場との関連でとらえる視点	関連する新聞記事を探して読む（３０分）
13回	現代イギリスの子育て事情 ・さまざまなメディアに紹介されるイギリスの子育て事情に目を向け、日本におけるそれとの共通点や違いについて考える。	文献読解力	イギリスに関する記事を探して読む（３０分）
14回	現代イギリスの保育制度改革 ・イギリスで進行中の保育制度改革について学び、日本における保育の課題や解決法について考える。	文献読解力	イギリスに関する記事を探して読む（３０分）
15回	まとめ ・講義内容の振り返りと課題の確認	資料整理	提出物作成準備（３０分）
試験	ポートフォリオで評価を行うため試験は実施しない		

授業科目名	心とからだの美的本質を追求する（心の領域）						
サブタイトル	女性のためのアサーション　～相手立てつつ自己表現～						
授業区分	教養科目	単位数	2 単位	開講時期	秋学期	出席要件	4/5
担当教員	菅沼憲治					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示						
到達目標と学習の成果	**到達目標** 女性が人間関係を通して自分も相手も大事にされたという実感が持てるコミュニケーションについて、アサーションの立場から理解を深める。なお、講義と実習を交えながら、実践力を伴ったアサーティブ行動の育成を目指す。 **学習成果** 相手をやり込めたという罪悪感や、自信のないために遠慮しすぎたという敗北感がない、Win-Winの自己表現能力を育成する。社会人基礎能力であるコミュニケーション能力の育成をする。						
ディプロマポリシーとの関連	ディプロマポリシー（1）の職場や家庭など日常生活で直面する心理的対人葛藤の問題に取り組む能力の育成。ディプロマポリシー（2）の価値観や、行動様式の異なる他者との人間関係を維持したり改善したりする知識やスキルの学習に寄与する。						
授業の方法	講義、集団討議、そしてエクササイズを用いた総合的な授業とする。						
テキスト教材 参考図書	教科書 増補改訂　セルフ・アサーション・トレーニング 菅沼憲治 東京図書 2017年5月3日 集団討議とエクササイズに積極的に参加し、他の受講生と交流をすること。						
評価の要点	各種レポート及び最終試験により、評価をつける。						
評価方法と採点基準	レポートにおける文章表現の完成度。さらに、最終試験において、70点以上の点数を獲得したものに対して、合格点を与える。						
履修上の注意事項や学習上の助言など	講義に加えて、集団討議及びエクササイズを授業中に実施する。これらに対して積極的に発言し、他の受講生とシェアリングをし、学習を深めること。						

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	アサーションとは何か アサーションとは何かについて説明しますアサーションの定義、アサーションの発想、アサーションの考え方を身に付けると、どのような人間に成長するかを学ぶ。また、アサーティブ行動をセルフ・チェックするチェックリストによるアンケートを実施し、自分のアサーティブ度を理解する。	対人葛藤が生じる場面で自分も相手も大切にできるコミュニケーション能力を身に付けることができる。これにより、健康な生活が送れる。	教科書の第一章、「アサーション・トレーニングの目的」を予習しておく。
2回	アサーション・トレーニング アサーション・トレーニングを通して、自己成長することの意味について学ぶ。そのためには、アサーティブ行動の記録を通して、自己の変化を文章で記録する。さらに、その記録をつけつつ、内容を検討し、振り返る作業が大事になる。	セルフ・モニターが自己成長の大切な資源であると学ぶことができる。自分の強み部分、自分の改善点、今後に向けた目標を書き出して、アサーティブな生き方の自己点検を可能にする。	教科書の第二章、「受身、攻撃、アサーティブな三つの行動様式」は何かを予習して理解しておく。
3回	アサーション権 アサーション権とは何かについて学ぶ。現実社会で、アサーティブ行動を維持し、また継続的に実践するには、支えとなる哲学が必要である。この哲学のことをアサーション権という。その具体的な内容について学習する。	対人的なコミュニケーションは、時には受身的、あるいは攻撃的に、極端に偏ってしまう傾向がある。その時、バランスを整え、両極端にぶれない中庸の心を回復する能力を身に付ける。	教科書の第十章、「人に操られない、人を操らない自立した人間になることを事前に理解しておく。
4回	歴史的背景 アサーション・トレーニングの歴史的背景について学ぶ。アメリカ社会において、人間の心は精神分析の理論で説明されることが多くある。しかし、学習理論により、心は条件付けによる結果であるとの成果を基にした行動理論に移っている。アサーション・トレーニングは、こうした条件付け理論を基にして始まった。現在では、認知行動療法の理論に至るまで、統合した理論で説明できるようになってきている。こうした歴史を学ぶ。	アサーティブなコミュニケーションは、生まれつきなものではない。むしろ、学習により、トレーニングとして獲得できることがわかる。そのトレーニングも、いきなり最終目標に到達するのではなく、一歩一歩、小目標から中間目標を経て、最終的なアサーティブ行動を実践できるまでにトレーニングする意義がわかる。	教科書の第三章、「行動科学を活かす」、及び第四章、「交流分析を活かす」、等について予習をしておく。
5回	アサーションとネットワーク社会 IT社会と言われる現代社会の中で、面対面のコミュニケーションの他に、オンライン・コミュニケーションが増えてきています。そこで、現実社会とネット社会、双方におけるアサーションの考え方について学ぶ。	現実社会及びネット社会におけるアサーティブなコミュニケーションのマナーがあることを学ぶ。	教科書の第六章、「IT社会とアサーティブ行動」の内容をよく理解し、授業に出る。
6回	アサーティブの考え アサーティブな人は、パフォーマンスとしての行動をトレーニングすることはもちろん、アサーティブに考えるトレーニングも同時に行っている。そこで、アサーティブな思考を育てていくのに役立つ理論を学ぶ。	考え方が不健康で否定的であると、行動や感情が不健康になります。そこで、健康な考えを作るにはどうするのか、について認知行動療法やREBTに基づいて学習する。	教科書の第五章、「REBTを活かす」の部分を予習しておく。特に、アルバート・エリス博士の提唱しているABC理論について、よく予習をして授業に臨む。
7回	不安への対処法 不安への対処法について学ぶ。多くの不健康で否定的な感情の中で、特に不安はその代表的なものである。よく過剰な不安感情を抱えてしまうと、不眠になったり、自己肯定感が低下したり、消極的な行動になってしまったりする。この不安のメカニズムを学習することにより、この感情と適切に向き合えるような態度が学べる。	不安は良くない感情だから排除しよう、とか、押さえ込もうとする傾向がある。ところが、健康な感情はモチベーションの資源になる。したがって、適切に不安と向き合えば、不安は自分にとっての見方であると気づく。	教科書の第十二章、「否定的メッセージ」の部分をよく読み、気が重くなるようなメッセージを送られたとしても、不健康にならない対処法を予習して授業に参加する。
8回	アサーション・トレーニングのプログラム アサーション・トレーニングは、大きく言って3つのプログラムから構成される。第一部は、アサーションについて知る。第二部は、アサーションの行動をトレーニングにより身に付ける。第三部は、現実社会に近い状況の中で、アサーティブ行動を実践し、それに対するフィードバックを受ける。こうした流れについて学ぶ。	アサーション・トレーニングは、緻密な準備の元で計画されたプログラムに基づいて行われることに気づく。このプログラムは、それぞれの目標をエビデンスに基づくデータにより、その効果を検証できていると知る。自分の変化をデータによって確認できる。	教科書の第九章、「アサーティブ行動を測る」を予習して参加する。授業が中盤に差し掛かった時点で、授業開始直後から、どのような自己成長があったのかを、データを基にして確認してみる必要がある。
9回	具体的な練習場面 具体的な練習場面に基づいて、アサーション・トレーニングを行う。身近な場面としては、家族。あるいは友人関係、あるいはアルバイト先、あるいはキャンパス・ライフである。このような具体的な状況の中で、自分の非アサーティブな行動をアサーティブな行動に変化させるには、何が必要かを点検してみる。	アサーション・トレーニングは、ステップ・バイ・ステップ方式で行われる、という手順について学べる。	教科書の第十一章、「肯定的メッセージ」の内容について予習をする。とかく、トレーニングは、スランプ状態に陥りやすい。その時に他者からのねぎらいと励ましは勇気づけにつながる。その言葉かけについて、予習する。
10回	これまでの振り返り 講義の第一回目から第九回目までをおさらいをする。いきなりアサーティブ行動を身につけようとすると、無理が生まれる。そこで、これまでの九回を振り返りつつ、残りの十回から十五回を展望する。	アサーション・トレーニングは、時々立ち止まって、振り返りをすることが大切である。一気に突っ走らないことである。休みを取りながら、未来を展望することが次への動機付けにつながることを学べる。	教科書の第十七章、「コーピングイメージで描く、自作4コマ漫画法」を予習して、授業に参加する。コーピングイメージは、適切な行動が出来ているイメージである。そのイメージを4コマ漫画で表現して、授業に持ち寄る。
11回	アサーティブ行動マトリックス アサーティブ行動マトリックスについて学ぶ。アサーティブ行動マトリックスは、対自的、対他的、対集団、対家族の状況に対してアサーティブに行動できるように、様々なエクササイズが想定されている図表である。そのエクササイズについて学ぶ。	アサーティブ行動は、現実社会で実践する前に、エクササイズという学習課題を通してトレーニングして、達成感を感じておくことが大切になる。安心・安全な教室の中で、楽しく学ぶことの意義について気づく。	教科書の第十三章、「問題解決行動」、第十四章「非言語行動」について予習する。
12回	傾聴 傾聴することについて、講義と実習を通して学ぶ。アサーティブ行動は、能動的に自己表現する訓練である。同時に、能動的に他者の話を聴くという訓練でもある。そこで、傾聴するという聴く姿勢について、練習をする。	話し上手は大事なことである。同時に、聞き上手もより一層、必要なことである。アサーティブ行動の中には、人の話にしっかり耳を傾ける姿勢も含まれていると学べる。	教科書の第十五章、「傾聴すること」の部分を予習する。特に、傾聴の5つのスキルについて、実習を通して学ぶ。
13回	集団及び家族の中でのアサーティブ行動 集団及び家族の中でアサーティブ行動をすることについて、学ぶ。二者関係の中ではアサーティブであっても、集団や家族関係の中でアサーティブになるというのは厄介な課題である。こうした点について、エクササイズを含めて学ぶ。	現実社会は、集団や組織またはシステムから成り立っている。そこで、集団のダイナミクスを配慮したアサーティブ行動について学ぶことができる。	教科書の第八章、「家族とアサーティブ行動」についての章をよく読んで、授業に参加する。
14回	日本文化とアサーティブ行動 アサーションという考え方は、欧米社会から導入されたと思いがちである。ところが、日本文化の中には、和の思想、あるいは思いやりの思想が歴史的に伝わっている。こうした他者への優しさ・いたわりを再認識し、日本人としてのアサーティブ行動について学習する。	アサーティブ行動は一律ではないことを学べる。文化や国民性によって、その違いがあって当然である。そこで、日本人としてアサーティブ行動を実践する姿勢について、気づくことができる。	教科書の第七章、「日本文化とアサーティブ行動」の章を予習して授業に参加する。
15回	ロールプレイングによる実践 アサーション・トレーニングの学習は、体験学習が大事である。そこで、ロールプレイングを活用して、自分の非アサーティブな行動をアサーティブな行動に変化させるというトレーニングを実施する。ただし、個人情報に関する守秘義務を念頭に置いて、授業に参加することは大切なことである。	アサーティブ行動は、頭で覚えて学ぶものではない。体験して身に付けるものである。安全・安心な教室で、ロールプレイングを実施することによって、人間はいつでも変化可能なのだということを実感できる。	教科書の第五部、「ロールプレイングの追体験」の部分をよく読んで、積極的にロールプレイングに参加する。
試験	実施する 1回から15回までの授業の講義内容及び教科書の内容を基にして、課題を出題する。		

授業科目名	自分を見つめ・拡げ・伝える（芸術領域）						
サブタイトル	歌唱アンサンブルから自分の声と心を磨く						
授業区分	教養科目	単位数	2 単位	開講時期	秋学期	出席要件	4/5
担当教員	渡辺明子					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示する。						
到達目標と学習の成果	**到達目標** ①発声の仕組みを理解し、正しい呼吸法を身に付けることができる。 ②自分の声を理解し、自己表現力を高めることができる。 ③協働活動により、楽譜を読みこなし演奏（歌唱）するという 問題解決力を身に付けることができる。						
	学習成果 ①発声の仕組みを理解して、胸式呼吸と腹式呼吸の違いを知ることができる。 ②歌唱における腹式呼吸ができる。 ③自分の声の良さと課題を認識して、表情豊かに歌うことができる。 ④グループ演習により、一人では困難な演奏も体験することができる。 ⑤グループ演習により、協働の大切さを知ることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	①デュプロマポリシーとの関係… 実践力を備えた女性の育成に向けて、自己の声や表情を豊かにすることで相手への 礼儀を学び、協働で演奏を仕上げていく中で「和」の精神や協調性を育成する。 ②教養教育の目的との関係… 一つの曲を歌唱することにより、価値観の多様な他者との調和を図り、 多面的な洞察力や問題解決力を育成する。						
授業の方法	発声の仕組みやのど・声のケアに関する知識に関する講義と、 発声練習や滑舌など歌唱技術に関する実技演習とを行う。 パート練習やアンサンブル練習を主として、 グループ・ワークの方法を導入し、 それぞれの主体的学びを尊重する。						
テキスト教材 参考図書	教科書は指定しない。 教科書は使用せず、プリントを配布。						
評価の要点	①実技を伴う内容のため、授業への意欲的な参加姿勢・態度を評価します。 ②レポート提出 ③学期末、発表会への参加						
評価方法と採点基準	①授業への意欲的な参加姿勢・態度…30% ②レポート提出 …20% ③学期末、発表会への参加…50%						
履修上の注意事項や学習上の助言など	歌唱技術に関しての技量は問はないが、真摯に自分の声に向き合い、向上心を持った学生の参加を希望する。 配布物の忘れ物は厳禁。 出席・態度は重視する。						

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 授業の目的と内容の説明	授業の内容	次回の準備 （持ち物など）
2回	声の出るしくみ・発声基礎 ①声の出るしくみを知る ②発声練習	声の出るしくみを理解する	発声練習の復習と練習（30分）
3回	腹式呼吸と声のケア 腹式呼吸の意義と方法 声のケアについて	腹式呼吸を理解する 声のケアについて知る	腹式呼吸を練習（30分）
4回	アンサンブルを楽しむ（1） わらべ歌とアカペラアンサンブルの違いを知る	わらべ歌について知る アカペラアンサンブル について	わらべ歌の復習（30分）
5回	アンサンブルを楽しむ（2） わらべ歌を知る	わらべ歌を理解する	わらべ歌の復習（30分）
6回	アンサンブルを楽しむ（3） アカペラアンサンブルの練習	アカペラアンサンブル を知る	声のケアについての復習、 歌唱の復習（30分）
7回	アンサンブルを楽しむ（4） カノンとコーラスの違い	カノンとコーラスの 違いを知る	カノンとコーラス の復習（30分）
8回	カノン（1） カノンの練習	①カノンを知り、 楽しむ ②発表会に向けて 練習	カノンの復習（30分）
9回	カノン（2） カノンの発表会	カノンの演奏技術 人前での演奏力	自己の演奏反省（30分）
10回	コーラス（1） 少人数でのコーラス曲を知る	少人数でのコーラス 曲の理解	曲の音取り練習（30分）
11回	コーラス（2） コーラスの基礎	ハーモニーを感じて 歌うことを知る	自分のパートの音取り 復習（30分）
12回	コーラス（3） ①コーラスを楽しむ ②発表会の練習	コーラスの楽し み方	発表会のため の練習（30分）
13回	コーラス（4） 発表会の練習	コーラスをするの 歌唱技術 「人と合わせる」 という事	発表の練習（30分）
14回	発表会 コーラスの発表会	コーラスを披露 する技術 人前で歌う事の 精神力	自己の課題を考える （30分）
15回	まとめ 発表会を体験して、アンサンブルを考える 他のグループを聴きあう	アンサンブルの 技術・楽しみ方	自己の課題を 考える（30分）
試験	授業で得たこと レポート提出		

授業科目名	自分を見つめ・拡げ・伝える（歴史領域）						
サブタイトル	歴史探訪～幕末・明治維新を探る～						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3
担当教員	金子英孝					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワー（研究室に掲示）						

到達目標と学習の成果

到達目標

（１）授業の目的
　　歴史的遺跡や活躍した人物の業績を追求することにより、歴史を身近に感じるとともに、その時代の特色を理解することを目指します。
（２）授業の構成
　　身近な歴史的教材や人物資料を基に、我が国の歴史を調べていきます。
到達目標①主に幕末期の特色を理解することができる。
　　②歴史の事象に対し、自分なりの考えを持つことができる。

学習成果

①身近にある歴史的な具体物から、その当時の時代の特色や文化財が残されている意義について自分なりに考えることができる。

②具体的な人物の業績から、歴史を多面的にとらえ、その時代の特色を説明できる。

③歴史に対して自分なりの意見を持ち、自己表現できる。

ディプロマポリシーとの関連

①ディプロマポリシーとの関係：円満な人格と幅広い見識や創造性を備えた「実践力」の　ある女性として自立していくための知識や感性を育成します。
②教養教育の目的との関係：変化の激しい現代社会に対応できる総合的な知の基盤を形成し、深い洞察力に基づき、問題を解決していく力を育成します。

授業の方法

①身近にある遺跡や文化財を調べ、我が国の歴史との関わりを調べる。（土日の場合もある）

②明治維新期に特徴的な活躍をした人物についてグループで協力して調べる。

③歴史上の人物の業績について調べ、その意義について発表する。

テキスト教材 参考図書

教材 幕末の偉人伝 山田淳一 自由国民社 ２０１０年９月

評価の要点

①授業中に課す課題（人物調べ及びディスカッション）とまとめレポートを中心に評価する。
②人物について的確に調べ、自分の考えを述べることができるか。

評価方法と採点基準

①授業中に課す課題（人物調べ）　５０％

②期末レポート　５０％

履修上の注意事項や学習上の助言など

・土日に地域探索を実施する場合もあるため、参加できること。
・我が国の歴史について、日頃から関心のある資料を収集するなど、積極的にかかわるよう努めてほしい。

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス ・歴史を学ぶ意義を考える。 ・シラバスの確認	・歴史的事象を学ぶ意欲 ・学習の見通しを持つ	・学びのまとめ(６０分)
2回	地域の歴史見学① ・身近にある遺跡を見学する。 （学園内及びその周辺） ・考えたことを記録する。	・文化財の調査の仕方 ・歴史を学ぶ意欲	・学びのまとめ(６０分)
3回	地域の歴史見学② ・見学して考えたことを発表する。 ・グループごとに討議する。	・調査見学をまとめる力	・学びのまとめ(６０分)
4回	地域の歴史見学③ ・戸定邸と徳川家について調べる。 ・明治維新の特徴をつかむ。	・幕末期の概要理解 ・松戸周辺の文化財理解	・学びのまとめ(６０分)
5回	明治維新とその群像① ・明治維新の概要を調べる。 ・具体的に調べたい人物を選ぶ。 ・人物ごとにグループ分けする。	・明治維新の概要理解 ・資料活用能力	・学びのまとめ(６０分)
6回	明治維新とその群像② ・選んだ人物ごとに調べる。 ・図書館等を活用する。 ・グループで協力する。	・明治維新の概要理解 ・資料活用能力	・学びのまとめ(６０分)
7回	明治維新とその群像③ ・選んだ人物ごとに調べる。 ・図書館等を活用する。 ・グループで協力する。	・明治維新の概要理解 ・資料活用能力	・学びのまとめ(６０分)
8回	明治維新とその群像④ ・選んだ人物ごとに調べる。 ・図書館等を活用する。 ・グループで協力する。	・明治維新の概要理解 ・資料活用能力	・学びのまとめ(６０分)
9回	明治維新とその群像⑤ー１ ・調べた人物ごとに発表する。 ・グループで協力して発表する。 ・質疑に回答する。	・歴史事象への自己見解 ・自己表現力	・発表予習（６０分）
10回	明治維新とその群像⑤ー２ ・調べた人物ごとに発表する。 ・グループで協力して発表する。 ・質疑に回答する。	・歴史事象への自己見解 ・自己表現力	・発表予習（６０分）
11回	明治維新とその群像⑤－３ ・調べた人物ごとに発表する。 ・グループで協力して発表する。 ・質疑に回答する。	・歴史事象への自己見解 ・自己表現力	・発表予習（６０分）
12回	明治維新とその群像⑤－４ ・調べた人物ごとに発表する。 ・グループで協力して発表する。 ・質疑に回答する。	・歴史事象への自己見解 ・自己表現力	・発表予習（６０分）
13回	まとめ① ・取り上げたテーマから、参考文献を基にまとめる。 ・自分なりの考えをレポートにまとめる。	・歴史事象への論理的思考力 ・レポート作成力	・レポートのまとめ （６０分）
14回	まとめ② ・取り上げたテーマから、参考文献を基にまとめる。 ・自分なりの考えをレポートにまとめる。	・歴史事象への論理的思考力 ・レポート作成力	・レポートのまとめ （６０分）
15回	まとめ③ ・取り上げたテーマから参考文献を基にまとめる。 ・作成したレポートを公表する。	・歴史事象への論理的思考力 ・レポート作成力	・予習（６０分）
試験	レポート 評価の要点に基づき、小レポートやまとめレポートで評価する。		

授業科目名	自分を見つめ・拡げ・伝える（文化領域Ｉ）						
サブタイトル	身近にある社会学『これって学問なんだ！』						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3以上
担当教員	川口一美					授業形態	講義
質問受付の方法	研究室（3911）に掲示しています。 オフィスアワーとして研究室に掲示						

到達目標と学習の成果

到達目標

（1）目的
現代社会や文化をを様々な切り口で捉え、自分と他者、自分と社会の関係について学びます。
自分を取り巻く文化（異文化、多文化も含む）を知る。
（2）到達目標
身近にある事柄を通し、「社会学」やそこにある「文化」とは何かを学び、身近な事象を学問的な視点で捉えることができる。
授業内で自らの課題を探求し、他者(学生同士)にむけ、プレゼンテーションをすることができる。

学習成果

社会の中で問題意識を持ち、探求することができるようになる。(社会問題を示せる)
社会や他者と自分の繋がり・関わりがわかる。
自分を取り巻く文化を知り、各々の文化に対し、理解しようとする姿勢を持つ事ができる。
授業内のコミュニケーションによって、自分を知り、他者を知ることができる。

ディプロマポリシーとの関連

自分が生きている社会や文化を自覚し、異なる社会や文化のあり方について考察する姿勢をはぐくむこと、
自分と異なるものを知ろうとする、または受け入れる感覚と洞察力を養い、現代社会を理解する幅広い
視野を培うことが、豊かな人間性の土台となり「実践力のある女性」が作られる。
他者、異文化、他文化、多文化に対する姿勢を養い、グローバルな視野をもって、自分で物事を見て、
課題を解決したり、情報を取り入れることができるほかの価値観をも共感することができる思考を養う。

授業の方法

毎時間出席の確認と一緒に５～10分の小テストを実施。
授業の最初には、前回授業の復習と小テストの振り返りをします。
授業のはじめに当日の授業キーワードを一緒に確認します。
授業の最後には、次回の授業予告
(具体的なテキストページや予習や復習のポイントを含む)をします。
なお、小テスト用紙の下の部分に，質問･要望を書き込める欄がありますので
活用して下さい。

具体的諸注意等は、初回のオリエンテーションで説明する。

テキスト教材 参考図書

教科書は指定しない。

評価の要点

この授業の参加者はすべて自らの課題について発表する。
グループでの話し合い，グループワーク等もあります。
ノートテキストを作成します。（このコピーを最終提出物とします）
授業ごとに小テストを実施します。（出席確認と同時に）

評価方法と採点基準

最終提出物(のコピー)40%
プレゼンテーション20%
小テスト20%
自己評価10%
他学生の評価10%

履修上の注意事項や学習上の助言など

１．レポート提出、プレゼンは期限・形式をまもること。
２．オフィスアワーを質問等の学習相談に活用してください。
３．授業に積極的な態度で臨むこと。
（意思表示、小テストの活用、事前・事後学習）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	授業オリエンテーション(シラバスを持参すること) これは何を先ぶれるか考えて ノートテキストを作成する	主体性 働きかけ力(他者を巻き込む力) 実行力 自己管理力	予習) シラバスを読む。 シラバスのコピーを取っておく 復習) シラバスをノートにはる ノートテキストを準備する
2回	こんなことが学問になるの？（私たちの今興味のあること） 今興味があることを発表しよう	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力	予習) 興味があることを 話せるようにしておく（20分） 復習) 授業のまとめとノート テキスト作成(20分)
3回	疑問はすでに学問の始まりだった！（社会学のすすめ） 社会学とは何かについて学びます	課題発見力 自発的学習力	予習) 前回発表から共通する 事を探してくる(20分) 復習) 授業まとめとノート テキスト作成(30分)
4回	みんなと私（社会とは何だろう？） 自分と他者の関わりについて考えます 自分とはどのように作られたのか 私達の言う「みんな」って？	情況把握力 理論的思考力	予習) 私は○○です。 ○○の部分を考える(20分) 復習) 授業まとめとノート テキスト作成(30分)
5回	現実（行為・コミュニケーション・人間の関係性）いまここで。 コミュニケーションとは何かを学びます。 私達の関係性について考えます。 自分のたれの誰か・誰かのための自分	理論的思考力 数量的スキル	予習)コミュニケーションを一言で 説明できるようにしておく(20分) 復習) 授業まとめとノートテキスト 作成(30分)
6回	生活とは何か。（幸せって何だっけ？） 生きること、幸せ、豊かさについて考えます。	課題発見力 問題解決力 理論的思考力 他者から学ぶ力	予習) 自分の幸せについて説明 できるようにしておく。(20分) 復習) 授業まとめとノートテキスト 作成(30分)
7回	若さと老い（決め手は何か。少子高齢社会ってどうなの？） 少子高齢社会とは何か。 若さや老いの価値観	柔軟性 理論的思考力	予習) お姉さんとおばさんの 違いを考える(20分) 復習) 授業まとめとノート テキスト作成(30分)
8回	自分は誰ですか？（自分・女性・アイデンティティ） 自分のアイデンティティについて考えます 私はなぜ私になったの？	分析力 自分を見つめる力 他者から学ぶ力	予習)自分の構成要素に ついて考える(20分) 復習) 授業まとめとノート テキスト作成(30分)
9回	社会学って実は・・・。 社会学の視点と考え方について学びます プレゼンテーションに向けてのオリエンテーション	気づきの視点、力 計画力 課題発見力	予習) 社会学について 調べる(20分) 復習) 授業まとめとノート テキスト作成(30分)
10回	学生のネタ探し プレゼンテーションの課題を考えよう	課題発見力 実行力	予習)プレゼンテーションの 素材探し 復習) プレゼンテーション 準備
11回	学生の探索 課題に対する準備をしよう 情報や資料の収集について学ぶ	数量的スキル 情報リテラシー	予習)プレゼンテーション準備 復習)プレゼンテーション準備
12回	学生の発表準備 プレゼンテーションに向けた準備	主体性 コミュニケーションスキル 情報リテラシー	予習)プレゼンテーション準備 復習)プレゼンテーション準備
13回	学生のプレゼンテーション プレゼンテーション （みんなの学びを発表そして、フィードバック）みんなで疑問を持ち･学び会おう	主体性 働きかけ力 価値観(違いを認める力) 情況把握力	予習)プレゼンテーション予行 復習) 各自のプレゼンに対する まとめとコメント作成
14回	学生のノートテキスト作成 ノートテキスト提出に向けての オリエンテーション	計画力 創造力 自主性	予習) ノートテキストの作成 復習) ノートテキストの作成
15回	授業振り返り この半年で学んだことを話し合ってみよう （みんなの学びを発表そして、フィードバック）	チームワーク 主体性 働きかけ力 情況把握力	予習)半年の振り返り をしておく 復習)ノートテキスト の完成
試験	最終提出物提出(レポート提出) 最終提出物のコピーの提出とプレゼンテーション等の評価を 総合して評価する。		

授業科目名	自然・社会・科学技術を考える（社会領域）						
サブタイトル	福祉課題の今を視る						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	２／３以上
担当教員	豊田　宗裕					授業形態	講義
質問受付の方法	授業の前後及びオフィスアワーにて受け付けます						

到達目標と学習の成果

到達目標

(1)授業の目的
日常の生活の中で起こっている様々な福祉課題について、実際の事例を分析・解説を行いながら、なぜそのような問題が起こるのか、それについてどのように考えていくのかの視点をともに考え、問題を視る目を育てることを目的とする。福祉課題というと、特殊な対象層の特殊な問題として考えられることが多いが、決してそうではなく私たちのすぐ身近なところで多くの問題が起こっていることを知り、その解決を考えられる女性となるよう、まずは問題を視る目を育てたい。
(2)授業の構成
各回のテーマに応じた問題の視点とその実際について教員からレクチャーをした後、事例として様々なドキュメントや映像を紹介し、グループ、個人でのワークを通じて意見を明確にする。
(3)到達目標
①福祉課題に関心を持つことができる
②その課題が抱える本質的な問題に気づき、またそれを考える視点を持つことができる
③多角的な視点で福祉課題を捉え、具体的な解決に向けた幅広い意見を持つことができる

学習成果

①福祉課題が生活に根付いた様々な部分と関連し、発生していることを理解できる
②人が生きていくために必要な力や権利（生存権）の保護について、具体的にイメージ化できる
③福祉課題の解決に向けて、多くの視点から解決策を考え、またそれを実践できる

ディプロマポリシーとの関連

①ディプロマポリシーとの関係
人が人として生きていくことの価値を見いだし、生きるための権利（生存権）を保障するということについて自ら考え行動することができる「実践力のある女性」の育成を目指す。
②教養教育の目的との関係
現代社会における福祉課題は、多面的な問題が絡み合いより複雑化の様相を呈している。その実態を理解し、本質を学ぶことを通して、学際的で多面的な問題解決の実践力を育成することを目指す。

授業の方法

①それぞれのテーマに応じた問題の視点やその見方、また現在の状況などを最初に講義を通じて学ぶ
②教員が用意した、それぞれのテーマに関連する事例（文字・図表資料や写真・映像など）を提示し、それぞれの考えをまとめる
③各回ごとに異なったグループにおいてグループ討議を行い、他の受講生との視点や考え方の違いを出し合いながら、グループ討議の結果をまとめる
④最後に、テーマに即して考えてほしいポイントや問題を視る視点を教員が提供し、グループ討議での検討結果も踏まえながら、自身のレポートをまとめる

テキスト教材参考図書

教科書は指定しない。　　毎回資料を作成し、配布する

評価の要点

①授業の趣旨を理解し、各テーマで提示した視点や考え方が、レポートなどに盛り込まれているかを評価する（テーマの理解度も含め）
②毎回レポートの提出を課すので、その提出状況と内容を相互に加味して評価する

評価方法と採点基準

①各回のグループ討議と提出レポートの状況及びその内容（60%）
②期末レポートによる評価(40%)

履修上の注意事項や学習上の助言など

①各回のレポート等、提出物は必ず出すこと
②各回とも、グループワークを基本とするため、ワークには積極的に参加すること
③新聞等様々なメディアで取り上げられている福祉課題に興味を持ち、目を通すようにすること

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	授業オリエンテーション 授業の目的や学んでほしい視点、また授業の進め方等についてレクチャーする（各回の授業内容は、順序の入れ替え等もある）	授業の目的・内容・方法について理解できる	自分の関心分野について意見をまとめる 身の回りの福祉問題について、調べまとめる （復習45分）
2回	人口減少社会と女性 わが国が抱える社会福祉問題の根幹にある、人口減少社会について、特に地域における女性の減少との関連で考える	人口減少社会と女性の生活との関係について説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる （復習45分）
3回	中山間地域での福祉のあり方を考える 中山間地域におけるわが国の福祉のあり方について考える	中山間地域とは。また中山間地域における福祉問題の特徴について説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
4回	福祉を巡るお金の問題①　介護費用とその負担 年々負担がかさむ介護費用の問題。支出だけでなく、その負担増をどのように考えるか	わが国の介護費用を巡る仕組みについて理解し、介護保険制度について説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
5回	福祉を巡るお金の問題②　世界の中での日本の社会保障・福祉財政 社会福祉・社会保障の財政について、他の国と状況を比較して考える	各国の社会保障・社会福祉の財政を考え比較することで、わが国が抱える問題について説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる （復習45分）
6回	身近な福祉サービスの提供組織 身近な地域でどのような団体が、福祉サービスの提供をしているのか、なぜそのような傾向があるのか、理解する	福祉ＮＰＯや公益法人等の非営利組織について学び、わが国の福祉サービス提供の現状と今後について自分の考えを説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
7回	社会福祉サービスの提供を巡って／福祉施設建設は「NO」 いまだに根強い、地域での施設建設問題。建設反対の意見をどのように考えるか、討論する	地域コミュニティの仕組みとそれらの活動内容について、現状の仕組みと課題が説明できる。	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
8回	障害者の地域生活を巡って／働きたいけど働けない 障害者の雇用施策はここ数年で大きく進んだが、それが実際に障害者の雇用に結びついているのか	障害者の雇用施策の内容とその実態について説明できる。なぜ就職が進まないのか、その問題点を考えることができる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
9回	貧困の連鎖から抜け出せない 貧困の連鎖と呼ばれる状況はどのようなことなのか。またなぜそれが起こるのか。脱却への道も討論の中で模索する	わが国の貧困者対策はどのようになっているのか。またその実態が説明でき、自身の考えをまとめることができる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
10回	街の力を維持していくために 身近な地域において、近年ではどのような問題が起こっているのか。地域住民の助け合いの状況や、地域における空き家の問題などWぼ考える	身近なご近所での福祉活動の取り組みについて理解し、地域で活動する民生委員や自治会活動などについて説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
11回	認知症高齢者の増加は何をもたらすか 高齢化がいっそう進む中で叫ばれているのが「認知症高齢者」の増加である。認知症高齢者の増加は、今後の社会に何をもたらすのかを考える	認知症高齢者の状況や地域においての認知症対応策の状況について説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
12回	児童虐待は今後も増えるのか 年々増加の一途をたどる児童虐待の問題について、その現状や対応策について議論する	児童虐待の状況について把握し、その対応策の現状と問題点について説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
13回	外国人労働者はわが国の福祉分野に不可欠なのか 経済連携協定や外国人研修生受け入れなど、福祉分野での外国人活用論についてわが国の介護分野での人手不足問題との関連を検討する	外国人労働者受け入れの実態と福祉分野での就労状況について理解できる。また他国における外国人雇用の状況等について説明できる	授業で学んだこと、討論したこと、グループでまとめたことなどを参考に、自身の意見をまとめる（復習45分）
14回	授業の総括と「福祉課題を視る目」 これまでの福祉課題のテーマを総括し、グループにおいて討論・意見交換を行う	他者の考え方や視点を理解し、自身の考え方に反映させることができる。福祉課題を多面的に視ることができる	（14回目の必須提出課題・次回のシンポジウムに向けて）シンポジウムで用いる原稿とレポートの作成を行う （予習90分）
15回	総合シンポジウムの実施 これまでの授業で取り上げた内容を基に作成したレポートを基にして、学生から数名のシンポジストを選出し、簡単なシンポジウムを行う	これまでの学びについて整理し、他の受講者に自身の考えを述べることができる。また他者の意見を積極的に受容し、自身の考え方の視野が広がる	これまでの学びから考える、「福祉課題を視る目」とはどのようなものなのか、まとめる（復習60分）
試験	レポート試験 これまでの授業で取り上げたテーマの中からもっとも関心のあったテーマを選び、そのテーマについて、与えられた課題に即してレポートを作成する		

授業科目名	心とからだの美的本質を追求する（心の領域）						
サブタイトル	手帳を使って人生の扉を開く～手帳ワークを体験してみよう～						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	４/５以上
担当教員	河野千佳					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示						
到達目標と学習の成果	**到達目標** (1)授業の目的 手帳というツールを使って、自分の未来に思いをはせ、 大学生活、さらにその後どのように生きていきたいかを考える機会とする。 (2)授業の構成 さまざまな手帳ワークに取り組みながら、自分の思いを明確にしていく。 (3)到達目標 ①手帳ワークを通して自己分析することができる。 ②理想の自分の姿をイメージし、行動計画を立てることができる。 ③手帳を使うことで「今」に集中し、自分に合った時間の使い方を考えることができる。						
	学習成果 ①さまざまな手帳ワークを通して自分自身について気づきを得ることができる。 ②理想の自分の姿を具体的にイメージし、行動計画を立てることで 理想により近づくための行動を実行に移すことができる。 ③手帳を使うことで「今」に集中し、自分に合った時間の使い方を 身につけることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	①ディプロマポリシーとの関連 価値ある生き方を追求し、「実践力のある女性」として自立していく力を育むために、 スケジュール管理と自身が望む将来像を可視化していくことで自己成長を試みる意欲を高める。 ②教養教育の目的との関連 手帳ワークを通して、自らの不安や苦悩と向き合い、本質的にいかに美しく生きるかについて 心と体のあらゆる視点からしっかりと見つめなおす。						
授業の方法	・授業はテキストや配布資料を用いて、ワーク作業を行う。 ・毎回継続課題を出し、それらに対するフィードバックを行う。 ・各ワークを通じての自身の気づきをレポートにまとめ、 それらをもとにグループディスカッションを行う。						
テキスト教材 参考図書	教科書 幸せな人がこっそりやっている手帳の書き方 さとうめぐみ 三交社 2016 準備するもの（５色ペン、手帳、模造紙、雑誌など）については初回に指示する。						
評価の要点	各トピックスに応じたワークに真剣に取り組み、 課題を継続的に遂行し、その成果が認められるかを確認する。						
評価方法と採点基準	毎回のワーク・課題への取り組みと完成度(70%)、 さらに成果のレポート(30%)により評価する。 １課題でも提出がなければ評価はしない。						
履修上の注意事項や学習上の助言など	①毎回ワークを取り入れるので、それらに真剣に取り組むこと ②継続課題があるので、毎日きちんと取り組むこと ③配布資料をまとめる自分なりのファイルを作ること ④課題の提出期限を厳守すること						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 教員紹介をし、授業の目標・進め方、評価方法、注意事項、 準備するものについて説明する	授業の進め方を理解し、授業に取り組む姿勢を理解する。	次回以降で使用するものを準備する
2回	マンスリーとウィークリーで時間管理① 手帳のマンスリーページとウィークリーページのルールを学び、 スケジュールを書きいれる １週間の振り返りをする	手帳の基本ルールを理解することができる。	【復習】次週のスケジュールを配布資料に書き入れておく
3回	マンスリーとウィークリーで時間管理② マンスリーページとウィークリーページを使って スケジュールを管理する １週間、１か月の振り返りをする	時間の使い方に気づくことができる。自身のスケジュールを可視化できる。	【復習】次週のスケジュールを手帳ワークしておく
4回	マンスリーとウィークリーで時間管理③ マンスリーページとウィークリーページを使って スケジュールを管理する 1か月の予定を計画し、「今月のテーマ」を決める	翌月の過ごし方をイメージして計画を立てることができる。	【復習】手帳ワークを継続。課題を仕上げる。
5回	ポジティブな表現について学ぶ 手帳ワークでの表現方法について学ぶ 否定的な表現は使わずに肯定的な表現で書き表す	物事を別の角度から捉えることで、肯定的に考え行動できる	【復習】手帳ワークを継続。これまでの表現を、肯定的に書き直す。
6回	自分の気持ちに気づく ハッピーマイレージ・一日一緑・プチ内観 ワクワクリスト・欲しいものリストを使って 自身の気持ちを可視化する	自身が本当に望んでいることに気づくことができる	【復習】手帳タイムをとり、追加した手帳ワークを継続。課題を仕上げる。
7回	理想の自分を思い描く① 夢リストを作成する ８つのカテゴリーについて理想の姿を考える	願望や生活バランスを俯瞰で確認することができる	【復習】手帳ワークを継続。課題を仕上げる。イメージに合う切り抜きを探す。
8回	理想の自分を思い描く② イヤーリングを作成する キャッチコピーを付ける	自分自身と向き合い望みに気づくことができる	【復習】手帳ワークを継続。課題を仕上げる。イメージに合う切り抜きを集める
9回	イメージをビジュアル化する① シンクロマップの作成① シンクロマップとは コラージュする	理想について、具体的に考えることができる	【復習】手帳ワークを継続。模造紙を準備。イメージに合う切り抜きを集める。
10回	イメージをビジュアル化する② シンクロマップの作成② レイアウトする	理想について、より具体的なイメージを持つことができる	【復習】手帳ワークを継続。イメージに合う切り抜きから厳選しておく。
11回	イメージをビジュアル化する③ シンクロマップの作成③ 切り抜きを貼ってシンクロマップを仕上げる	理想を「見える化」することで意欲を高めることができる	【復習】手帳ワークを継続。課題を仕上げる。写真を撮り印刷する
12回	イメージをビジュアル化する④ シンクロマップの作成④ 発表する　　手帳に写真を貼る	受講生間で共有することで自身の理想を再確認できる。	【復習】手帳ワークを継続。
13回	一年の振り返りをする 2017年をどのように過ごしてきたか ８つのカテゴリーで振り返る できたこと・できなかったことをまとめる	自身の1年間を客観的に振り返ることができる。	【復習】手帳ワークを継続。課題を仕上げる。
14回	2018年の過ごし方を考える 2018年の新しい手帳にこれまでの手帳ワークを実践する 新しい1年に思いをはせる	行動計画を実行しやすくすることができる	【復習】手帳ワークを継続。課題を仕上げる。
15回	まとめ これまでの内容を総ざらい メモページの活用方法	自己管理をすることができる。自己評価を高めることができる。	【復習】2018年の手帳を有効に使いこなし、手帳ワークを継続する。
試験	レポート 各ワーク・課題の遂行と複数回のレポートの提出をもって、評価する。 そのため、一つでも提出がなければ、成績評価はしない。		

授業科目名	自分を見つめ・拡げ・伝える（文学領域）						
サブタイトル	『うつほ物語』の世界						
授業区分	教養科目	単位数	2 単位	開講時期	秋学期	出席要件	4/5以上
担当教員	正道寺康子					授業形態	講義
質問受付の方法	授業の前後、またはオフィスアワー ※オフィスアワーの時間については授業時に告知する						
到達目標と学習の成果	**到達目標** 〈授業の目的〉 『うつほ物語』の世界を理解する。その上で、幻想的要素の濃い物語が誕生する背景にも目を向け、『うつほ物語』がどのように形成されたのか、さらには『源氏物語』との差異を考えてゆくことで、『うつほ物語』の特徴を明らかにすることを目指す。 〈到達目標〉 ①古文に親しみ、抵抗なく古文を読むことができる。 ②『うつほ物語』について説明できる。 ③伝奇物語、あるいは長編物語の特徴を説明できる。 **学習成果** ①古典を読み、分析し、考える力が獲得できる。 ②伝奇物語の特徴や成り立ちが理解できる。 ③物語に生きる、あるいは物語と生きることで、自己を見つめ、人間とは何かを考える力が獲得できる。						
ディプロマポリシーとの関連	〈ディプロマポリシーとの関連〉 ・人間に対する批判と寛容の精神を養うことによって、生きるために最も大切なことを学び取る視点が得られる。 ・日本人としてのアイデンティティーを確立し、国際社会でも活躍できる教養が身につく。 ・先人から日本文化を継承し、次世代に伝えてゆくといった役割を担えるだけの力が身につく。 〈教養教育の目的との関連〉 ・文学作品等を読んで人生を深く省察することができる力を育む。 ・広い視野で日本や世界の文学を理解し、協調・共存できる力を育む。						
授業の方法	①『源氏物語』にも大きな影響を与えた長編物語『うつほ物語』を原文で読む。 『うつほ物語』は、俊蔭一族（俊蔭、俊蔭娘、仲忠、いぬ宮）の秘曲伝授の物語で、音楽が物語の主題と深く関わる。平安時代の伝奇物語を原文で味わいたい。 ②『うつほ物語』が形成された背景について、関連資料を調べる。 ③『うつほ物語』の主題について考え、まとめる。						
テキスト教材 参考図書	教科書　『ビギナーズ・クラシックス　うつほ物語』（角川ソフィア文庫）　室城秀之編　角川書店						
評価の要点	①課題について時間をかけて調査し、よく考えたか。 ②物語世界を理解できたか。						
評価方法と採点基準	・課題　50% ・筆記試験　50%						
履修上の注意事項や学習上の助言など	①教科書を毎時間使用するので、授業に持ってこない場合は、その授業は欠席扱いとする。 ②毎時間、『古語辞典』を持参のこと。 ③古文を読むので、日頃から古典作品を読んで、古文に慣れておこう。 ④毎時間、予習は３０分、復習は６０分程度を目安とする。						

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	はじめに 『うつほ物語』が成った時代および『うつほ物語』の概略について学習する。	平安時代の物語文学について説明できる。	平安文学について調べる。（予習30分） 物語文学の流れをまとめる。（復習60分）
2回	俊蔭巻の世界①（漂流譚・異界訪問譚） 清原俊蔭が二十三年にわたって旅した波斯国西方の世界について学習する。	俊蔭巻について説明できる。 漂流譚や異界訪問譚について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 『竹取物語』や浦島説話と比べてみる。（復習60分）
3回	俊蔭巻の世界②（波斯国） 清原俊蔭が二十三年にわたって旅した波斯国西方の世界について学習する。	俊蔭巻について説明できる。 「波斯国」について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 他作品の異界と比較する。（復習60分）
4回	俊蔭巻の世界③（桐の木） 清原俊蔭が二十三年にわたって旅した波斯国西方の世界について学習する。	俊蔭巻について説明できる。 巨木信仰について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 樹木表象について調べる。（復習60分）
5回	俊蔭巻の世界④（北山） 俊蔭の娘と仲忠が住んだ北山の世界について学習する。	仲忠孝養譚について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 巨木に籠る意味を考える。（復習60分）
6回	あて宮求婚譚①（三奇人など） 三奇人をはじめ、あて宮に恋する人物について、その役割を考える。	あて宮求婚譚について説明できる。 三奇人について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 他作品の求婚譚と比較する。（復習60分）
7回	忠こそ巻の世界 忠こそに恋をした継母、一条北の方。老女の恋の物語について学習する。	老女の恋、継子いじめ譚について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 他作品の老女の恋と比較する。（復習60分）
8回	吹上巻の世界 仲忠のライバルである源涼や吹上宮について学習する。	神南備種松の一族について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 四方四季の庭を考える。（復習60分）
9回	あて宮求婚譚②（あて宮入内） あて宮求婚譚がどのように決着したのかについて学習する。	あて宮求婚譚について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 入内後のあて宮について考える。（復習60分）
10回	内侍のかみ巻の世界（王昭君の琴曲） 物語に登場する王昭君説話とその琴曲について学習する。	内侍のかみ巻について説明できる。 七絃琴について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 七絃琴の琴曲を調べる。（復習60分）
11回	蔵開の巻の世界 俊蔭が波斯国から持ち帰ったもの―「唐物」について学習する。	蔵開の巻について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 唐物について調べる。（復習60分）
12回	国譲巻の世界 立坊争いについて学習する。	国譲巻について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 東宮妃について調べる。（復習60分）
13回	楼の上巻の世界①（三条京極邸と楼） 三条京極邸の「楼」について学習する。	三条京極邸や「楼」について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 平安時代の庭園を調べる。（復習60分）
14回	楼の上巻の世界②（秘曲伝授と音楽の奇跡） 秘曲伝授と秘琴披露について学習する。	楼の上巻について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 物語の主題を考える。（復習60分）
15回	まとめ 『うつほ物語』の世界についてまとめる。	『うつほ物語』の世界について説明できる。	該当箇所を音読する。（予習30分） 他作品に描かれた音楽と比較する。（復習60分）
試験	うつほ物語の世界について ノート・教科書・プリント持ち込み不可の筆記試験（論述式）		

授業科目名	自然・社会・科学技術を考える（科学技術領域）						
サブタイトル	先端技術の利点と欠点を考える						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	4/5
担当教員	神野　茂樹					授業形態	講義
質問受付の方法	メールにて						
到達目標と学習の成果	**到達目標** 先端技術に応用に対し現時点での情報を調べることができ、 その技術の応用に関し自分なりの論理的な意見を持つことができる。						
	学習成果 具体的な話題の決定ができる 話題提供のための資料収集ができる 資料に基づいたプレゼンができる 論理的な討論ができる 話題に関する自分なりの（最終）意見をまとめることができる						
ディプロマポリシーとの関連	教育目標の２のうち 論理的思考力を活かし、個別学問領域を超えたアイディアや洞察力と多面的な問題発見・解決力を育成する。 学修成果の３のうち 事象を客観的かつ論理的に考察することができ、自己の生き方をデザインすることができる。 以上のことを目標とする。 提供する資料は日本語とは限らないし、収集すべき情報も日本語とは限らない。						
授業の方法	１）技術がいかに私たちの生活を改善させてきたか 技術が私たちにどのような悪影響を及ぼしてきたか、 私たちがどのような対処を試みてきたかを講義する。 ２）現在の先端技術について解説する。 ３）自分たちが取り上げる先端技術に関して話し合ってもらう。 ４）グループに分かれ、賛成派になるか反対派になるか決める。 ５）賛成すべき理由反対すべき理由を考え、発表の準備を行う。 ６）両派がプレゼンを行い意見交換を行う。 ７）賛成派と反対派を交換 ８）両派がプレゼンを行い意見交換を行う。 ９）レポートをまとめてもらう。 １０）３）から９）を繰り返す						
テキスト教材 参考図書	教科書は指定しない。						
評価の要点	資料収集能力及びプレゼンテーション能力。 積極的に質疑応答に参加したかどうか。 特に発表者は質問に対し論理的に答えられたかどうか。 質問者は発表の非論理性を衝くことができたかどうか。 以上をカウントする。 感情に流された議論はカウントされない。						
評価方法と採点基準	レポート提出 情報収集が適切か 論理的にまとめられているか						
履修上の注意事項や学習上の助言など	ニュースを積極的に見る。 あらゆる意見に対し疑問を持ってみる。 自分ならどうするかなと考えてみるなどを 常日頃から行うこと。 科学につきまとう倫理問題とは何かを考えること。 英語や専門用語に対して拒否反応を示さないこと。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	授業に関する説明 半年間の授業に関して目的を説明する。 最初の数回は最近の技術に関して簡単に説明する。後半はその応用の利点と欠点を討論してもらう。 なお技術に関しての説明は増やす可能性もある。		
2回	分子生物学の基本 ゲノムには生物の情報が記されている。その基本から最近の知見まで簡単に説明する。進化と種の絶滅に関しても触れる。	ゲノム工学の理解するための基礎知識の習得	
3回	遺伝子工学の基本と医学への応用 遺伝子操作の原理とその応用に関して簡単に説明する。	実際のゲノム工学に関する知識を得る。	今後の討論のための話題を選び、担当者（班）を決定
4回	化学物質について 天然由来のものと人工的に合成されたものの違いを簡単に説明する。	何が安全で何が安全でないか、どのような根拠に基づくのかを知る。また医薬品やサプリメントについても考える。	今後の討論のための話題を選び、担当者（班）を決定
5回	アレルギーについて 免疫学、特にアレルギーの復習	自己免疫疾患、アナフィラキシーなどを理解し、栄養士として何ができるか知る。	今後の討論のための話題を考え、担当者（班）を決定
6回	電磁波について 被曝や紫外線による体への影響、それに対する我々の防御機構などを簡単に説明する	日光や放射線の人体に対する影響とオゾン層破壊やエネルギー問題に関する討論のための知識を得る	今後の討論のための話題を考え、担当者（班）を決定
7回	人間の自然への関わり 生活を便利にするための自然への干渉に関して簡単に説明する。	人間が便利になる分のしわ寄せがどこにくるかを理解する	今後の討論のための話題を考え、担当者（班）を決定
8回	討論１ 今回の話題に関し賛成派と反対派が３０分ずつプレゼンを行い討論する	説明の仕方と討論の仕方の段階的習得	
9回	討論２ 今回の話題に関し賛成派と反対派が３０分ずつプレゼンを行い討論する	説明の仕方と討論の仕方の段階的習得	
10回	討論３ 今回の話題に関し賛成派と反対派が３０分ずつプレゼンを行い討論する	説明の仕方と討論の仕方の段階的習得	
11回	討論４ 今回の話題に関し賛成派と反対派が３０分ずつプレゼンを行い討論する	説明の仕方と討論の仕方の段階的習得	
12回	討論５ 今回の話題に関し賛成派と反対派が３０分ずつプレゼンを行い討論する	説明の仕方と討論の仕方の段階的習得	
13回	討論６ 今回の話題に関し賛成派と反対派が３０分ずつプレゼンを行い討論する	説明の仕方と討論の仕方の段階的習得	
14回	討論７ 今回の話題に関し賛成派と反対派が３０分ずつプレゼンを行い討論する	説明の仕方と討論の仕方の段階的習得	
15回	総括 全員でこれまでの討論に関し意見交換	感情に流されず、現時点での資料に基づく論理的判断を行うこと	
試験	レポート レポート提出 成績には毎回の討論でのポイントも含む		

授業科目名	自然・社会・科学技術を考える（社会領域）						
サブタイトル	異文化理解と文化人類学						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	２/３　以上
担当教員	山田千香子					授業形態	講義
質問受付の方法	授業終了後やオフィスアワーに受け付けます。 オフィスアワー時間帯は研究室に表示します。						

到達目標と学習の成果

到達目標

（１）目的
「我々」とは異なる人々＝他者をいかに理解するかというテーマを中心に、世界の様々な民族の持つ文化や社会について比較学習し、その過程で日本の社会や文化を相対化して考える。
（２）到達目標
①「社会・文化」とは何かについて多様な視点から考えることができる。
②世界の諸社会・諸文化における普遍性と多様性に気づき、それらを尊重することができる。
③異文化への関心を拡げる。
④異文化理解について必要とされる基礎的倫理的態度を身に付ける。

学習成果

①「社会・文化」についての論理や基礎知識を習得し、「社会・文化」について多様な側面から理解できる。
②　異文化理解について必要とされる基礎的倫理的態度が理解できる。
③　異文化理解のみならず、日本の社会や文化を相対化して考えることができる。
④「他者理解」に至る過程から、人間社会の把握力と理解力を養う。

ディプロマポリシーとの関連

①福祉の分野は「人間理解」と「人間が創り出す総体としての社会」をいかに理解するかが基本となる。
それらの力「人間社会の理解と把握力」を養う。
②「実践力を備えた女性」に求められる基本的要素として、マクロな視点から「幅広く社会や文化の理解ができる」ことであり、ミクロな視点からは「自分が生活する地域社会・文化」へ何かしらの還元を考えることができる。

授業の方法

アクティブラーニングとPBLの導入
①前半は講義形式の授業を実施する。
②異文化についてのDVDを視聴し、その内容についてグループごとに話し合い、グループ発表をする。
③上記②を２回実施する。
④各自、DVD視聴後のレポートを提出する。

テキスト教材 参考図書

教材　『目からウロコの文化人類学入門』　斗鬼　正一　ミネルヴァ書房
参考書　『文化人類学入門』　祖父江孝男　中公新書
参考書　『文化人類学』　波平恵美子　医学書院
参考書　船曳健夫　『文化人類学キーワード』　有斐閣

評価の要点

到達目標に達していること
①講義内容の把握と基本的用語や基本的理論の理解ができる。
②異文化社会おける多様な考え方や価値観、他者の存在に気づくことができる。
③課題レポートをまとめることができる。

評価方法と採点基準

①小テスト３回＋グループ話し合いの参加状況（３０％）
②課題レポート（２０％）
③最終試験（５０％）
以上の合計で評価する。

履修上の注意事項や学習上の助言など

授業時にテキスト以外の内容のプリントを配布しますので、
単位取得のためには毎回の出席が求められます。

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	はじめに―人間探検の学：文化人類学 異文化理解とは－文化人類学のガイダンス	異文化理解の基礎知識。 文化人類学の基礎知識と基本的理解	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入
2回	人は色をどう見ているのか 私たちの色の認識は生後に育てられていく。 同じ物、同じ色を見ているようであっても「認識の仕方」は文化によって異なっている。その点の気づきを育ててゆく。	「あたりまえ」が「あたりまえでないこと」への気づきを体験する ―自己を相対化する力	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
3回	人は音をどう聞いているのか 言語によって音の表現が異なるように、音がどのように認識されどのように表現されるのか、文化による相違を認識する。	今までの「あたりまえ」が「あたりまえ」でなくなることに気づくこと ―自己を相対化する力	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
4回	文化人類学の歴史と先人たち 文化人類学の歴史と基礎的理論についての知識理解を深める。 （小テスト第１回）	異文化理解と文化人類学の関わりについての理解力。	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
5回	環境と文化の関係―採集狩猟社会 文化と環境の関係について、人間社会の出発点と考えられる「採集狩猟社会」について考えていく。	「採集狩猟社会」についての理解力	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
6回	環境と文化の関係―牧畜社会 文化と環境の関係について、人間社会の出発点と考えられる「牧畜社会」について考えていく。	「牧畜社会」への理解力	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
7回	環境と文化の関係－農耕社会 文化と環境の関係について、現代文明を深くかかわる「農耕社会」について考えていく。	「農耕社会」と現代社会の関係性について	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
8回	環境と文化の関係－漁撈社会 講義とDVD視聴 （小テスト　第2回）	映像による「異文化体験」と理解の深化。	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
9回	人の行動―食、味覚と文化 人間の本能である「食欲」と行動について考える。 人間の味覚は幼少の時に決まると考えられているが、「美味しさとは」何か。	「食べる」という行動についての新たな視点を身につける。	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
10回	まぜ美しい風景は美しいのか。 「きれい」「美しい」という視点も文化によって異なることを考えていく。 ※グループワークの実施。課題：「きれいなもの」「美しいもの」について、各グループで話し合い発表する。	美しさを相対化する視点。	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
11回	なぜ美人は美人なのか 女性が「美人」か「不美人」かはどのように決まるのだろうか。 一方で男性は何を基準として、「イケメン」や「ハンサム」が決められるのだろうか。 ※グループワークの実施。「美人」や「イケメン」について、各グループで話し合い発表する。	「美人」や「イケメン」を相対化する視点。	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
12回	正常・異常とは何か 私たちの文化での正常と異常は、世界共通ではなくそれぞれの社会によって異なっている。	ものの見方の柔軟性。	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
13回	共生の時代を上手に生きる 異文化と接触することが日常的になった現在。 これまでの異文化理解の学習を具体的にどう活かしていったらよいのか考えていく。	共生という視点に気づく力。	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
14回	フィールドワークという人間探検 フィールドワークとは「参与観察」とも表現され、間接的なテレビやインターネット、マスメディア等の二次的情報ではなく、実際に自分自身による「現場での参与経験」を指す。 人間理解には欠かせない直接的な手法である。	フィールドワークの重要性への理解	出席レポート（内容についてのまとめと質問事項の整理）の記入。
15回	まとめ まとめとしての試験の実施	物事への理解が個別理解ではなく、総体としての個の存在として把握でき、普遍性と多様性から考えられる幅広い視野を目指す。	
試験	授業の最終日に筆記試験を実施予定。		

授業科目名	心とからだの美的本質を追求する（心の領域）						
サブタイトル	他者と生きること						
授業区分	教養科目	単位数	２ 単位	開講時期	秋学期	出席要件	２/３以上
担当教員	佐野　裕子					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示（7330）						

到達目標と学習の成果

到達目標

（１）授業の目的
　社会で共に生きる人間の多様性について、より深く理解し、豊かな心を育む実践的な力を身に付けることを目的とする。
（２）授業の構成と到達目標
　①人間の多様性について理解し、コミュニケーションを図る方法を説明できる。
　②多様な人との交わりの中で、他者を理解することについての課題をグループで話し合い、解決方法を示すことができる。

学習成果

①多様な人との交わりの中で、他者理解に関する課題に対して主体的に解決することができる。
②人との関わりの中で個の力を発揮し、アイディアや洞察力を活かし、自己の確立を図ることがでいる。

ディプロマポリシーとの関連

（１）ディプロマポリシーとの関連
　多様な他者への尊敬と深い理解をもった社会人となり、社会の発達に貢献できる
（２）教養教育の目的との関係
　社会で共に生きる人の多様性について理解し、自己と他者との関係を理解する力を育み、現代社会で直面する課題を解決する力を養う。

授業の方法

（１）授業は、講義と演習の形式でによって知識の獲得を目指す。
（２）ゲームやグループワーク、ディスカッションを行い、発表し、各自レポートにまとめ提出する。
（３）コミュニケーションスキルの育成を図る教材を作成し、発表して、評価し合う

テキスト教材参考図書

教科書は指定しない。　　プリントを配布
参考書 グループのちからを生かすＰＡ入門 プロジェクトアドベンチャージャパン（著）プロジェクトアドベンチャージャパン ２００５

評価の要点

（１）人間の多様性について理解し、コミュニケーションスキルの育成について説明できる。
（２）他者を理解することの課題に対して、自分の考えを示すことができる。
（３）教材製作、レポート作成、グループワークへの積極的な取り組み、態度なども評価対象とする。

評価方法と採点基準

期末試験（60%）
グループワークへの取り組み（20%）。
レポート、教材製作（20%）。

履修上の注意事項や学習上の助言など

授業は、教室や実技室で実施することから場所を確認して下さい。
実技室での授業は、活動しやすい服装、上履きを準備して下さい。

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス・授業の目的 授業の内容、方法についての説明	授業の内容、方法についての理解	自分を客観的にみることについてまとめる。
2回	コミュニティビルディング コミュニティビルディングの説明と実践	他者への関心、人の多様性の理解	コミュニティビルディングについてまとめる。
3回	ウォームアップゲーム（１） ゲームを通して、チームづくりを行い、コミュニケーション力を高める。	コミュニケーションスキルを高める	ウォームアップゲーム（１）の展開を考える。
4回	ウォームアップゲーム（２） ゲームを通して心身をほぐし、他者との円滑なコミュニケーションについて実践する。	円滑なコミュニケーションの理解	ウォームアップゲーム（２）の展開を考える
5回	安心感を得るためのアップゲーム（１） アップゲームを通して様々な人とふれあう。	安心感を得ることの理解	アップゲーム（１）の展開を考える
6回	安心感を得るためのアップゲーム（２） チームつくりゲームを通して、チームの様々な人とふれあう。	社会における人の多様性の理解	アップゲーム（２）の展開を考える
7回	信頼関係を構築するために（１） 信頼関係を構築するためのゲーム（１）を通してチームの人間関係を深める。	信頼関係を構築するためのチーム（社会）システムの理解	信頼関係を構築するためのゲームのプロセスをまとめる
8回	コミュニケーションと創造力 チーム内でコミュニケーションを高め、チームの創造力を発揮し、課題を乗り越える。	コミュニケーションの深まりと、チーム（社会）システムの理解	ゲームを通して、チームの創造力発揮までのプロセスをまとめる
9回	信頼関係を構築するために（２） 信頼関係を構築するためのゲーム（２）を通してチームの人間関係を深める。	信頼関係を構築するためのコミュニケーションのスキルアップ	信頼関係を深める プロセスをまとめる
10回	他者との対立と自分の変容（１） 対立・変容ゲームを通してチームメンバーの人間理解を深める。	他者との対立関係の理論的理解	対立・変容ゲーム（１）を通して築かれる人間理解のプロセスをまとめる
11回	他者との対立と自分の変容（２） 対立・変容ゲーム（２）を通して、チーム力を発揮する。	自己のありかたについての理解	対立・変容ゲーム（２）を通してチーム力についてまとめる
12回	チーム力の発揮と思いやり チーム力を発揮するゲームを通して、思いやりについて考える。	他者への思いやりの理解	思いやりについて自分の考えをまとめる
13回	チームの潜在力と自己のあり方 チームの潜在力を発揮するゲームを通して、自己のあり方について考究する。	チーム（社会）の潜在力と自己のあり方の理解	チーム（社会）と自己のあり方についてまとめる
14回	チームの潜在力と自己の成長 チーム（社会）の潜在力を発揮するためのゲームを通して、自己成長について考究する。	他者や自己の成長、肯定感の理解	チーム（社会）のありかたと成長についてまとめる
15回	成果の発表 他者の多様性について理解し、社会の中で互いによりよく生きるために必要な自己のあり方について考究する。	チーム（社会）社会の構築と自己のあり方の理解	チーム（社会）の中の自分は、何ができるのかを考えまとめる。
試験	筆記試験 授業で取り上げたテーマ（それに付随するテーマでも可）について自分なりに命題化し、まとめる。		

授業科目名	心とからだの美的本質を追求する（からだの領域）						
サブタイトル	自分のからだをメンテナンスしましょう						
授業区分	教養科目	単位数	2 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3
担当教員	石井紀子					授業形態	講義
質問受付の方法	授業前後・授業時に記入する振り返りシート・オフィスアワーとして研究室に掲示します						

到達目標と学習の成果

到達目標

1. 目的
   からだの中で行われている様々なしくみを知り、自分の健康維持・増進のために活用することを目的とします。
2. 授業構成と到達目標
   ①授業ごとに振り返りシートを記入し、授業のポイントを自己管理することができる。
   ②ペアワーク、グループワークを通して、自己の見解と他者の見解を対比し意見をまとめ、口頭及び文章で発表することができる。
   ③グループワークを通して、リーダーシップを発揮することができる。
   ④授業で理解したことをどのように活用するのかを、明確に述べることができる。

学習成果

(1)授業のポイントを明確にすることができる。
(2)主体的に学ぶことで、学習を自己管理することができる。
(3)グループワークに積極的に取り組み、リーダーシップを発揮することができる。
(4)授業で理解したことをどのように活用するのかを、明確に述べることができる。

ディプロマポリシーとの関連

1. 教養科目として位置づけられ、広い見識と専門性、創造性を有する「実践力のある女性」の育成に役立つ科目である。
2. カリキュラムマップでは、「人間性を高める」科目に位置づけられる。

授業の方法

本授業はPBLを通して、アクティブ・ラーニングを行う。
具体的には、以下の2点である。
(1) ペアワークやグループワークを通して、各自が知識を深めます。
(2) 毎回の授業の終わりに、『振り返りシート』を記入し提出します。

テキスト教材 参考図書

教科書は指定しない。

評価の要点

(1) 授業のまとめ、振り返りを『振り返りシート』に記入できる。
(2) ペアワークやグループワークに、積極的な参加ができる。
(3) 授業で理解したことをどのように活用するのかをレポートに記述し、明確に示すことができる。

評価方法と採点基準

授業の終わりに『振り返りシート』を記入し、授業の要点を明確にすることを基本とする。
ペアワークやグループワーク時のワークシート（40%）、課題レポート（60%）で評価を行う。

履修上の注意事項や学習上の助言など

興味を持って、授業に参加してください。

	授業回数別教育内容	身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 授業の進め方を説明します。 様々な学科の学生との交流 テーマに沿った自己紹介	自己表現力 コミュニケーション力	予習： シラバスを読んでできてください。
2回	姿勢について① 姿勢のしくみ 骨・筋肉・神経とのかかわり	物事の構造を理解する力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 姿勢のしくみを自分の言葉で説明する
3回	姿勢について② 姿勢のチェック ペアワーク ワークシートに沿って姿勢をチェック	観察力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 姿勢チェックの結果を意識し、自分の姿勢を振り返る
4回	内臓の働き① 循環器系の働きと健康の関係 心臓や血液の働き グループワーク	理解力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 循環器系の働きを、自分の言葉で説明する
5回	内臓の働き② 呼吸器系の働きと健康の関係 肺の働き グループワーク	理解力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 呼吸器系の働きを、自分の言葉で説明する
6回	内臓の働き③ 泌尿器系の働きと健康の関係 グループワーク	理解力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 泌尿器系の働きを、自分の言葉で説明する
7回	内臓の働き④ 消化器系の働きと健康の関係 グループワーク	物事の構造を理解する力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 消化器系の働きを、自分の言葉で説明する
8回	内臓の働き⑤ 内分泌系の働きと健康の関係 グループワーク	理解力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 内分泌系の働きを、自分の言葉で説明する
9回	脳の働き① 感情のしくみと健康の関係 グループワーク	理解力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 感情とは何か、自分の言葉で説明する
10回	脳の働き② 記憶のしくみと健康の関係 グループワーク	理解力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 記憶のしくみを、自分の言葉で説明する
11回	脳の働き③ 睡眠のしくみと健康の関係 グループワーク	理解力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 睡眠のしくみを、自分の言葉で説明する
12回	からだのメンテナンス① 自分のからだの状態を分析 ペアワーク、グループワーク	分析力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 自分のからだの状況を、分析する
13回	からだのメンテナンス② からだのメンテナンスとして行うことを、グループワークでまとめる	整理力 分析力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 自分に合うメンテナンスの方法を探る
14回	からだのメンテナンス③ 発表会 からだのメンテナンス　グループ発表	プレゼンテーション力 聴く力	予習： 発表練習
15回	まとめ これまでの学びや実践を通して考えたことを踏まえて、総復習を行います。	整理力 分析力 自己表現力 コミュニケーション力	復習： 30分
試験	レポート 指定された期日までに、レポートを作成し提出します。 （テーマについては、ガイダンスで説明を行います。）		